

Fujitsu Desktop ESPRIMO

ESPRIMO G6016-TC

製品ガイド

本書をお読みにする前に

1 本製品の特長

2 各部名称

3 取り扱い

4 周辺機器

5 アプリ

6 BIOS

7 お手入れ

8 トラブル
シューティング

9 仕様

目次

本書をお読みになる前に	6
安全にお使いいただくために	6
本書の表記	6
Windowsの操作	8
BIOSやドライバーのアップデートについて	9
デバイスの暗号化およびBitLockerドライブ暗号化について	9
商標および著作権について	9
第1章 本製品の特長	
1.1 運用面、セキュリティ面に優れたシンクライアント	11
1.2 運用上の注意	12
1.2.1 管理者アカウントとパスワード設定	12
1.2.2 アプリ	12
1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能	13
1.3.1 書込保護機能とは	13
1.4 保護管理ツール	15
1.4.1 保護管理ツールを起動する	15
1.4.2 書込保護機能の設定／解除	16
1.4.3 内蔵フラッシュメモリへの書き込み制御	17
1.5 不正使用からのセキュリティ	22
1.5.1 BIOSのパスワード	22
1.5.2 Systemwalker Desktop Keeper for Standalone	22
1.6 製品の盗難防止	23
1.6.1 製品本体の施錠方法	23
第2章 各部名称	
2.1 製品本体前面	25
2.2 製品本体背面	26
2.3 製品本体内部	28
2.4 キーボード	29
第3章 取り扱い	
3.1 マウス	32
3.1.1 注意事項	32
3.1.2 マウスの基本設定を変更する	32
3.2 ディスプレイ	33
3.2.1 注意事項	33
3.2.2 解像度を変更する	33

3.3	マルチディスプレイ機能	34
3.3.1	マルチディスプレイ機能とは	34
3.3.2	注意事項	35
3.3.3	マルチディスプレイ機能を設定する	35
3.4	サウンド	36
3.4.1	全体の再生音量を調節する	36
3.4.2	アプリごとの再生音量を調節する	36
3.4.3	機器や項目ごとの音量を調節する	37
3.4.4	オーディオ端子の機能を切り替える	38
3.4.5	既定のオーディオ機器を選択する	38
3.4.6	AIノイズキャンセラー	39
3.4.7	スピーカーの音質を調節する	46
3.5	省電力	47
3.5.1	省電力状態	47
3.5.2	電源を切る	49
3.5.3	省電力設定	50
3.6	通信	51
3.6.1	有線LAN	51
3.6.2	無線LAN	52
3.6.3	Bluetoothワイヤレステクノロジー	53
3.6.4	無線通信機能の電波を発信する／停止する	53
3.7	セキュリティチップ (TPM)	55

第4章 周辺機器

4.1	周辺機器を取り付ける前に	57
4.1.1	注意事項	57
4.2	本体カバー	58
4.2.1	注意事項	58
4.2.2	本体カバーを取り外す	58
4.2.3	本体カバーを取り付ける	59
4.3	メモリ	60
4.3.1	注意事項	60
4.3.2	メモリを取り付ける	60
4.3.3	メモリを取り外す	61
4.4	コネクタの接続／取り外し	62
4.4.1	注意事項	62
4.4.2	ディスプレイコネクタ	62
4.4.3	USBコネクタ	64
4.4.4	オーディオ端子	64
4.4.5	LANコネクタ	65
4.4.6	シリアルコネクタ	66

第5章 アプリ

5.1	アプリの紹介	68
5.1.1	一覧表の見かた	68
5.1.2	ネットワーク関係のアプリ	69
5.1.3	セキュリティ関連のアプリ	69
5.1.4	サポート関連のアプリ	70
5.1.5	ユーティリティ	70
5.2	インストール	71
5.2.1	「ドライバズディスク検索」からのインストール	71
5.2.2	「AuthConductor Client Basic」のインストール	72
5.3	アンインストール	73
5.3.1	注意事項	73
5.3.2	アンインストール方法	74

第6章 BIOS

6.1	BIOSセットアップ	76
6.2	BIOSセットアップの操作のしかた	77
6.2.1	BIOSセットアップを起動する	77
6.2.2	BIOSセットアップ画面	77
6.2.3	BIOSセットアップメニュー	77
6.2.4	BIOSセットアップを終了する	78
6.2.5	起動メニューを使用する	79
6.3	設定事例集	80
6.3.1	BIOSのパスワード機能を使う	80
6.3.2	起動デバイスを変更する	83
6.3.3	セキュリティチップの設定を変更する	84
6.3.4	セキュアブートの設定を変更する	85
6.3.5	Wake on LANを有効にする	85
6.3.6	Wake on RTCを有効にする	86
6.3.7	イベントログを確認する	86
6.3.8	イベントログを消去する	87
6.3.9	ご購入時の設定に戻す	87

第7章 お手入れ

7.1	日常のお手入れ	89
7.1.1	製品本体、キーボード、マウスの表面の汚れ	89
7.2	定期的なお手入れ	90
7.2.1	注意事項	90
7.2.2	製品本体外部のほこりを取る	90

第8章 トラブルシューティング

8.1	トラブル発生時の基本操作	92
8.1.1	状況を確認する	92
8.1.2	以前の状態に戻す	93
8.1.3	トラブルシューティングで調べる	93
8.1.4	インターネットで調べる	93
8.1.5	診断プログラムを使用する	93
8.1.6	サポートの窓口に相談する	95
8.2	よくあるトラブルと解決方法	96
8.2.1	トラブル一覧	96
8.2.2	起動・終了時のトラブル	97
8.2.3	Windows・アプリ関連のトラブル	100
8.2.4	ハードウェア関連のトラブル	104
8.2.5	エラーメッセージ一覧	111
8.3	それでも解決できないときは	115
8.3.1	お問い合わせ先	115

第9章 仕様

9.1	本体仕様	117
9.1.1	ESPRIMO G6016-TC	117
9.1.2	六面図	121
9.2	CPU	122
9.3	ディスプレイ	123
9.3.1	解像度	123
9.4	無線LAN	124

廃棄・リサイクル

126

付録1 製品本体の廃棄・譲渡時の注意

127

製品の廃棄・譲渡時の内蔵フラッシュメモリ上のデータ消去に関する注意	127
データ消去	128

付録2 Windowsの新規インストールについて

132

注意事項	132
新規インストールの準備	132
新規インストール手順	133

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

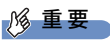

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたくうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2026年4月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、ご購入元へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】 + 【F3】キー、【Shift】 + 【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタートボタン」を表示して、「すべて」にある「Windows ツール」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべて」の「Windows ツール」の順にクリックします。

POINT

- ▶ 本書での操作手順は、「スタート」メニューの「すべて」のビューを「一覧」に切り替えた状態で説明しています。
表示の切り替えについては、「■ 「スタート」ボタンからアプリを起動する」(→P.8) をご覧ください。

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。
 操作に必要なドライブは、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。
 使用できる周辺機器については、「カタログ/オプション品対応一覧」のページ（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/）の「オプション品対応一覧」をご覧ください。
 また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載しているディスク

ディスク名称
リカバリデータディスク
リカバリ起動ディスク
ドライバースディスク

ご購入時の構成によっては、これらのディスクは添付されていません。
 本製品に格納されているイメージからディスクを作成する必要があります。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。
 あらかじめご了承ください。
 なお、本文内において書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
	ESPRIMO G6016-TC	G6016-TC
Windows 11 IoT Enterprise LTSC 2024	Windows 11	Windows
Bluetooth®	Bluetooth	
Fujitsu Security Solution AuthConductor™ Client Basic	AuthConductor Client Basic	
FUJITSU Software Systemwalker Desktop Keeper for Standalone	Systemwalker Desktop Keeper for Standalone	

Windowsの操作

■ クイック設定

アプリからの通知を表示する他、クリックすることで画面の明るさ設定や通信機能の状態などを設定できるアイコンが表示されます。

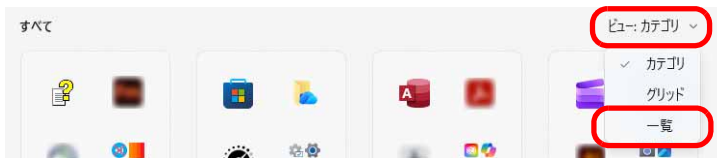
- 1 通知領域にある  をクリックします。
画面右側に「クイック設定」が表示されます。

■ 「スタート」 ボタンからアプリを起動する

本書のアプリを表示する手順は、「スタート」メニューの「すべて」のビューを「一覧」に切り替えた状態で説明しています。

次の手順で「一覧」に切り替えてください。

- 1 「スタート」 ボタンをクリックし、「すべて」のビューで「一覧」を選択します。



■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

次の手順で「コントロールパネル」ウィンドウを表示させてください。


- 1 「スタート」 ボタン→「すべて」の「Windows ツール」の順にクリックし、「コントロールパネル」をダブルクリックします。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 通知領域のアイコン

通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。

表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の  をクリックします。

BIOSやドライバーのアップデートについて

本製品には、さまざまなアプリや周辺機器の接続／制御に必要なBIOS、ドライバーなどが搭載されています。これらのアプリ、BIOS、ドライバーに対して、アップデートプログラムが提供されることがあります。アップデートプログラムには、次のような内容が含まれています。

- 機能の向上、追加
- 操作性の向上
- 品質改善

本製品をより快適にお使いいただくために、常に最新版のBIOSやドライバーを適用してください。アップデート方法については、弊社アップデートサイト (https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html) をご覧ください。

デバイスの暗号化およびBitLockerドライブ暗号化について

次の場合は、Windowsに搭載されている「デバイスの暗号化」機能が自動的に有効になり、本製品搭載の内蔵フラッシュメモリが暗号化されることがあります。

- Microsoftアカウントで本製品にサインインしている場合
- Microsoft Entra (Azure Active Directory) アカウントまたは組織 (職場／学校) アカウントで本製品にサインインしている場合

また、「BitLockerドライブ暗号化」を有効にした場合も、内蔵フラッシュメモリが暗号化されます。

暗号化された内蔵フラッシュメモリを修理した場合や修理によりハードウェア情報が更新された場合、本製品起動時に「回復キー」の入力を求められます。

「回復キー」を入力しないと本製品を起動することができないため、事前に「回復キー」を確認しなくさないように保管してください。

回復キーの確認手順については、『取扱説明書』をご覧ください。

商標および著作権について

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel SpeedStepは、アメリカ合衆国および / またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc.が所有権を有します。富士通株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。

InsydeH20はInsyde Softwareの登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright Fujitsu Limited 2026

1

第1章

本製品の特長

本製品の特長について説明しています。

1.1	運用面、セキュリティ面に優れたシンクライアント	11
1.2	運用上の注意	12
1.3	内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能	13
1.4	保護管理ツール	15
1.5	不正使用からのセキュリティ	22
1.6	製品の盗難防止	23

1.1 運用面、セキュリティ面に優れたシンクライアント

シンクライアントとは、製品側（クライアント側）に最低限の機能しか持たせず、サーバー側でアプリやデータなどの資源を一元管理するシステムの総称です。本製品は、このようなシステムへの適用を前提とした製品です。

また、アプリのインストールや実行、データの保管はすべてサーバー上で行うため、従来の製品に比べて次のような特長があります。

POINT

- ▶ サーバー環境およびネットワーク環境などの影響により、パフォーマンスが十分に発揮できない場合があります。必ず、仮想環境を事前に確認してください。

■ ユーザーやアプリを管理しやすい

- サーバーへのサインインが必須となるため、サーバー側でクライアント（ユーザー）を、一元管理できます。
- 業務で使用するアプリはサーバーにインストールされるため、アプリもサーバー側で一元管理できます。これにより次のようなことが可能となります。
 - ・各クライアントでアプリのバージョンが違うことによるトラブルの防止
 - ・アプリの変更やバージョンアップにかかるコストの大幅な削減
 - ・管理外アプリの無断インストールを防止

■ 故障などによるデータ消失のリスクを軽減

- データはすべてサーバー側に保存されるため、製品の故障によるデータの損失がありません。

■ 情報漏えいに強い

- データはすべてサーバー側に保存されるため、製品が盗難に遭った場合でも情報漏えいのリスクがありません。
- 外部記憶媒体による情報漏えいを防ぐために、「1.5.2 Systemwalker Desktop Keeper for Standalone」（→P.22）を使用してUSBメモリやメモリーカードなどの使用を制限できます。
- セキュリティ設定はサーバー側で行うため、セキュリティポリシーの管理・変更などが容易になります。また、個々のクライアント上での設定ミスが防げます。

■ 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能

本製品特有の機能です。

詳しくは、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」（→P.13）をご覧ください。

1.2 運用上の注意

1.2.1 管理者アカウントとパスワード設定

本製品のご購入時は、初めて電源を入れたときに「このPCのアカウントの作成」で作成される管理者アカウントのみが設定されています。

必要に応じて新しいアカウントを作成してください。

重要

- ▶ 内蔵フラッシュメモリへの書き込みは、書込保護機能が「無効」の状態で行ってください。書込保護機能が「有効」の状態で行うと再起動後に設定が消去され、設定前の状態に戻ってしまいます。内蔵フラッシュメモリに書き込む場合は、「1.4.3 内蔵フラッシュメモリへの書き込み制御」(→P.17)をご覧ください。また、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが終わったら、書込保護機能を「有効」にして使用することを強くお勧めします。

POINT

- ▶ ユーザーアカウントは、「管理者アカウント」と「標準ユーザーアカウント」があります。本製品を管理される方用に「管理者アカウント」、通常業務でお使いになる方用に「標準ユーザーアカウント」を作成し、運用されることをお勧めします。

1.2.2 アプリ

■ Webブラウザー

本製品には「Microsoft Edge」のWebブラウザーが搭載されています。

このブラウザーは、Webインターフェース（Receiver for Web接続）での使用を主な用途として想定しています。

セキュリティの一元管理の観点からも、インターネットの閲覧には「リモートデスクトップ接続」を使用し、サーバー側のブラウザーを使用することをお勧めします。

■ Systemwalker Desktop Keeper for Standalone

本製品には、Systemwalker Desktop Keeper for Standaloneが添付されています。

ご使用にあたっては「5.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール」(→P.71)をご覧ください。アプリをインストールしてください。

また、パスワードを設定したうえで利用してください。

Systemwalker Desktop Keeper for Standaloneについては、「ドライバーズディスク」内のマニュアルをご覧ください。

その他のアプリについては、「5.1 アプリの紹介」(→P.68)をご覧ください。

1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能

本製品のOSや環境設定などのシステムデータは、内蔵フラッシュメモリに保存されていますが、書込保護機能によって保護することができます。この書込保護機能は、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが発生したときに、書き込むか書き込まないかを制御できます。

1.3.1 書込保護機能とは

本製品では、内蔵フラッシュメモリ全体への書き込みやフォルダーやファイル、レジストリへの書き込みを制御する、書込保護機能を用意しています。

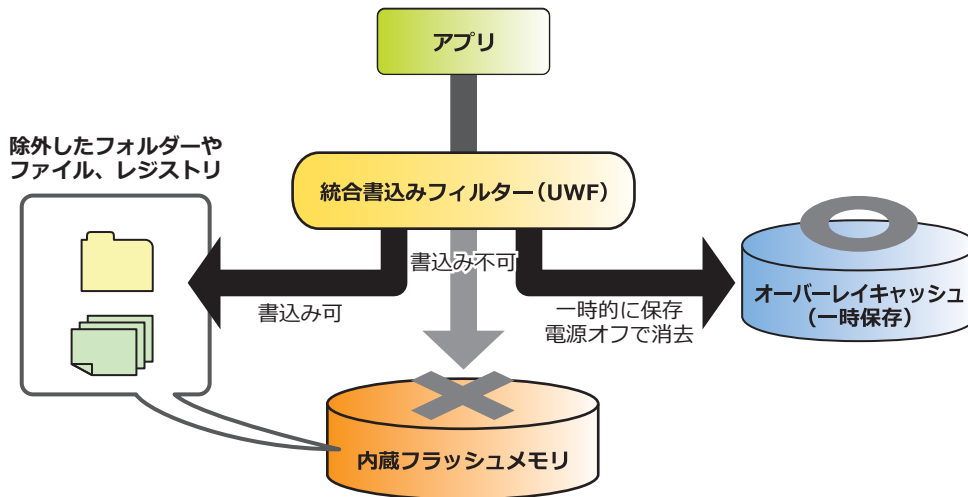
POINT

- ▶ 通常の運用では、内蔵フラッシュメモリ全体を保護状態にして使用することを強くお勧めします。
- ▶ 書込保護機能の設定は、「1.4 保護管理ツール」(→P.15)をご覧ください。

■ 統合書込みフィルター (UWF : Unified Write Filter)

UWFは、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが発生した場合に、内蔵フラッシュメモリ全体への書き込みや、フォルダーやファイル、レジストリへの書き込みを制御します。

□ UWFが有効な状態



● 内蔵フラッシュメモリ全体を保護

内蔵フラッシュメモリへの書き込みが発生した場合、内蔵フラッシュメモリへ書き込む代わりに、オーバーレイキャッシュ（メインメモリまたは内蔵フラッシュメモリ上）に書き込みを行い、内蔵フラッシュメモリ内のデータを保護します。

オーバーレイキャッシュへの書き込みは、アプリなどからは内蔵フラッシュメモリ上に書き込みを行ったときと同じように見えていますが、実際には書き込まれたデータはオーバーレイキャッシュ上に記憶されます。

重要

- ▶ 設定変更などを行っても、電源を切ったり再起動したりすると設定前の状態に戻ってしまいます。
- ▶ 電源を切らずにスリープ状態にした場合は、オーバーレイキャッシュの内容は保持されます。ただし、スリープ状態のまま電源が切れた場合は、オーバーレイキャッシュの内容は消去されますのでご注意ください。

● 保護対象から除外したフォルダーやファイル、レジストリへの書き込み

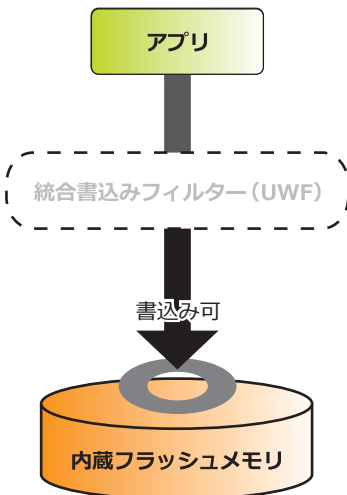
内蔵フラッシュメモリ上の設定したフォルダーやファイル、レジストリに書き込まれます。

重要

- ▶ フォルダーやファイル、レジストリを除外指定する場合は、十分に確認して行ってください。Windowsが正常に動作しなくなる可能性があります。
- ▶ 特定のアプリが使用するフォルダーやファイル、レジストリの除外指定が不十分な場合、特定のアプリが正常に動作しない可能性があります。フォルダーやファイル、レジストリの除外指定は、特定のアプリの仕様を十分に確認して行ってください。



□ UWFが無効な状態

内蔵フラッシュメモリへ書き込みを行い、内蔵フラッシュメモリは保護しません。



1.4 保護管理ツール

1.4.1 保護管理ツールを起動する

- 1 通知領域の保護管理ツールアイコン（または）をダブルクリックします。「保護管理ツール」ウィンドウが表示されます。





■ 設定状態を確認する

「保護情報」の「状況」で確認します。

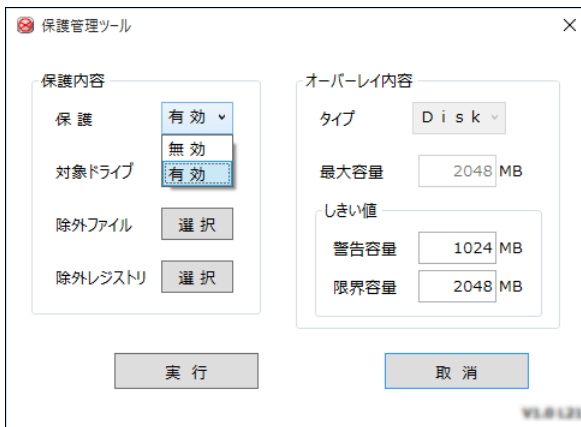
- 有効：保護機能が有効になっており、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが禁止されている状態です。また、この状態ではアプリなどからの書き込みは、オーバーレイキャッシュ（メインメモリまたは内蔵フラッシュメモリ上）に対して行われるため、再起動すると変更した設定はすべて無効になります。ただし、除外指定したフォルダーやファイル、レジストリについては、書き込みができます（→ P.17）。
- 無効：保護機能が無効になっており、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが可能な状態です。本製品の設定を変更する場合は、通常この状態に切り替えます。

POINT

- ▶ 通知領域のアイコンでも、現在の状況の確認ができます。
 - の場合：保護機能が有効（書き込み不可）
 - の場合：保護機能が無効（書き込み可能）

1.4.2 書込保護機能の設定／解除

- 1 管理者権限をもったユーザーアカウントでサインインします。
- 2 保護管理ツールを起動します（→P.15）。
- 3 「設定」をクリックします。
- 4 「保護内容」の「保護」で、書込保護機能の設定を行います。
 - ・保護機能を設定する場合：「有効」を選択。
 - ・保護機能を解除する場合：「無効」を選択。



- 5 「実行」をクリックします。

設定が変更されると、再起動を促すメッセージが表示されます。
設定の変更がない場合は表示されません。

重要

- ▶ 「取消」をクリックすると、設定は反映されずに「保護管理ツール」ウィンドウが閉じます。

- 6 「はい」をクリックします。

製品が再起動します。再起動後、設定が反映されます。

重要

- ▶ Windows Updateやドライバーアップデートを行う場合
書込保護機能を「有効」にする前に、Windows Updateやドライバーアップデートの再起動後の更新処理が完了していることを確認してください。
必ず、更新が完全に終わってから書込保護機能を変更してください。

1.4.3 内蔵フラッシュメモリへの書き込み制御

■ 設定内容を内蔵フラッシュメモリに書き込む

書込保護機能を一時的に解除して、設定内容の変更を内蔵フラッシュメモリに書き込みます。

重要

▶ 書込保護機能を解除し設定内容を変更した後は、必ず書込保護機能を「有効」に設定してください。

- 1 管理者権限をもったユーザーアカウントでサインインします。
- 2 保護管理ツールを起動します (→P.15)。
書込保護機能を有効にしている場合は、「1.4.2 書込保護機能の設定／解除」(→P.16) を行い無効に設定してください。
- 3 「設定」をクリックします。
- 4 「保護内容」で、「対象ドライブ」を選択します。
 - ・ 保護機能から除外するフォルダーやファイルを設定する場合は、「除外ファイル」で選択します (→P.18)。
 - ・ 保護機能から除外するレジストリキーを選択する場合は、「除外レジストリ」を選択します (→P.19)。
- 5 「実行」をクリックします。
設定が変更されると、再起動を促すメッセージが表示されます。

重要

▶ 「取消」をクリックすると、設定は反映されずに「保護管理ツール」ウィンドウが閉じます。

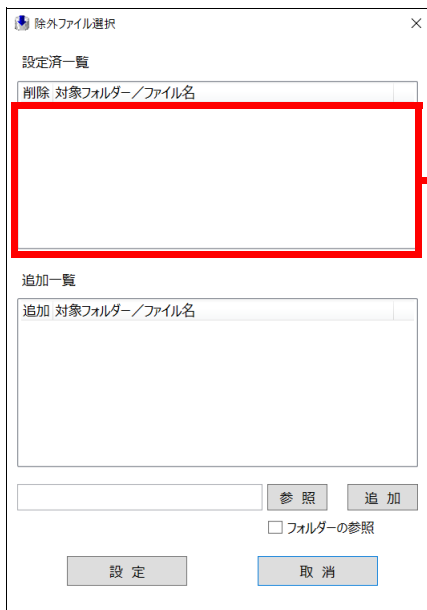
- 6 「はい」をクリックします。
製品が再起動します。再起動後、設定が反映されます。
- 7 保護管理ツールを起動し、保護機能を「有効」に設定します (→P.16)。

以上で、設定が内蔵フラッシュメモリに書き込まれました。

設定が反映されていることと、「保護管理ツール」ウィンドウで保護内容が「有効」になっていることを確認してください。

■ フォルダーやファイル単位で書き込みを制御する

- 1 管理者権限をもったユーザーアカウントでサインインします。
- 2 保護管理ツールを起動します (→P.15)。
書込保護機能を有効にしている場合は、「1.4.2 書込保護機能の設定／解除」(→P.16) を行い無効に設定してください。
- 3 「設定」をクリックします。
- 4 「保護内容」の「除外ファイル」の「選択」をクリックします。
「除外ファイル選択」ウィンドウが表示されます。



ここに除外するフォルダー
またはファイルが表示されます。

- 5 保護機能から除外するフォルダーまたはファイルを選択します。
 1. 「除外フォルダー」を追加する場合は「フォルダーの参照」にチェックを付けます。
 2. 書き込みを制御したいフォルダーまたはファイル名を完全パスでテキストボックスに入力、または「参照」をクリックして表示される画面から対象フォルダーまたはファイルを選択します。
 3. 「追加」をクリックします。
選択したフォルダーまたはファイル名が「追加一覧」に追加されます。
- 6 「設定」をクリックします。
「保護管理ツール」ウィンドウに戻ります。
- 7 「実行」をクリックします。
設定が変更されると、再起動を促すメッセージが表示されます。

重要

- ▶ 「取消」をクリックすると、設定は反映されずに「保護管理ツール」ウィンドウが閉じます。

- 8 「はい」をクリックします。
製品が再起動します。再起動後、設定が反映されます。

- 9 保護管理ツールを起動し、保護機能を「有効」に設定します（→P.16）。

設定したフォルダーやファイル以外は、書込保護の対象となります。

書き込み可能なフォルダーやファイルは、「除外ファイル選択」ウィンドウの「設定済一覧」に追加されます。

■ レジストリの書き込みを制御する

- 1 管理者権限をもったユーザーアカウントでサインインします。

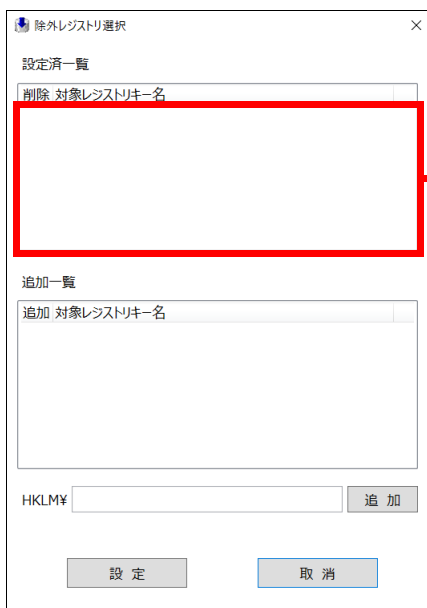
- 2 保護管理ツールを起動します（→P.15）。

書込保護機能を有効にしている場合は、「1.4.2 書込保護機能の設定／解除」（→P.16）を行い無効に設定してください。

- 3 「設定」をクリックします。

- 4 「保護内容」の「除外レジストリ」の「選択」をクリックします。

「除外レジストリ選択」ウィンドウが表示されます。



ここに除外するレジストリが表示されます。

- 5 保護機能から除外するレジストリキー名を、テキストボックスに入力します。
レジストリキー名は、接頭語（HKEY_LOCAL_MACHINE¥）を除いて入力してください。

- 6 「追加」をクリックします。

選択したレジストリキー名が「追加一覧」に追加されます。

- 7 「設定」をクリックします。

「保護管理ツール」ウィンドウに戻ります。

8 「実行」をクリックします。

設定が変更されると、再起動を促すメッセージが表示されます。

重要

▶ 「取消」をクリックすると、設定は反映されずに「保護管理ツール」ウィンドウが閉じます。

9 「はい」をクリックします。

製品が再起動します。再起動後、設定が反映されます。

10 保護管理ツールを起動し、保護機能を「有効」に設定します (→P.16)。

設定したレジストリキー以外は、書込保護の対象となります。

書き込み可能なレジストリキーは、「除外レジストリ選択」ウィンドウの「設定済一覧」に追加されます。

■ オーバーレイ内容を変更する

- 1 書込保護機能を無効にします。
「1.4.2 書込保護機能の設定／解除」(→P.16) を行い無効に設定してください。
- 2 管理者権限をもったユーザーアカウントでサインインします。
- 3 保護管理ツールを起動します (→P.15)。
- 4 「設定」をクリックします。
- 5 「オーバーレイ内容」の各設定を変更します。

設定項目	
タイプ	オーバーレイキャッシュを作成する場所を選択します。
RAM	メインメモリ上に作成
Disk	内蔵フラッシュメモリ上に作成
最大容量	オーバーレイキャッシュの容量をMB単位で設定します。 オーバーレイキャッシュの容量の最小値は、1024MBです。 本製品での初期設定値は2048MBです。 オーバーレイキャッシュを作成する場所により、設定できる容量の大きさは異なります。
しきい値	オーバーレイキャッシュの使用容量が設定した値に到達、または超えた時に、イベントログを出力させる容量をMB単位で設定します。 イベントログを出力したくない場合は、0を設定してください。 それぞれの推奨値は、次のとおりです。
警告容量	オーバーレイキャッシュの最大容量の1/2
限界容量	警告容量以上、かつ、オーバーレイキャッシュの最大容量以下

- 6 「実行」をクリックします。
設定が変更されると、再起動を促すメッセージが表示されます。

重要

- ▶ 「取消」をクリックすると、設定は反映されずに「保護管理ツール」ウィンドウが閉じます。

- 7 「はい」をクリックします。
製品が再起動します。再起動後、設定が反映されます。
- 8 保護管理ツールを起動し、保護機能を「有効」に設定します (→P.16)。

1.5 不正使用からのセキュリティ

ここでは、不正使用から製品を守るため、本製品で設定できるパスワードや機能などについて説明しています。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、コンピューターの安全性も高まります。

重要

- ▶ 本製品の修理が必要な場合は、必ずパスワードなどのセキュリティを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ▶ パスワードは数字だけでなく英字や記号を入れるなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

1.5.1 BIOSのパスワード

コンピューターの起動時のパスワードを設定できます。パスワードを知っている人だけが製品を起動できます。また、コンピューターの内蔵フラッシュメモリ自体にパスワードを設定できます。詳しくは、「6.3.1 BIOSのパスワード機能を使う」(→P.80)をご覧ください。

1.5.2 Systemwalker Desktop Keeper for Standalone

USBデバイスの使用を制限し、記憶媒体による情報の持ち出しや持ち込みを防ぎ情報漏えいを防止することができます。

また、USBデバイスに対する利用者の操作の記録、利用者への操作記録の通知を設定できます。

本製品では、ご購入時は次のポートやデバイスが無効に設定されているため、そのままでは使用できません。

- USB (一部利用可能)

ご使用にあたっては、管理者がパスワードを設定して使用することをお勧めします。

Systemwalker Desktop Keeper for Standaloneの使い方については、「ドライバズディスク」内のマニュアルをご覧ください。

重要

- ▶ 本アプリを使用する場合は「5.2.1 「ドライバズディスク検索」からのインストール」(→P.71)をご覧ください。

1.6 製品の盗難防止

製品本体を持ち出しできないようにすることで、盗難や紛失の危険から保護します。

1.6.1 製品本体の施錠方法

製品本体の盗難防止用ロック取り付け穴に、盗難防止用ケーブルを取り付けることができます。盗難防止用ロック取り付け穴の場所については、「2章 各部名称」(→P.24)をご覧ください。

2

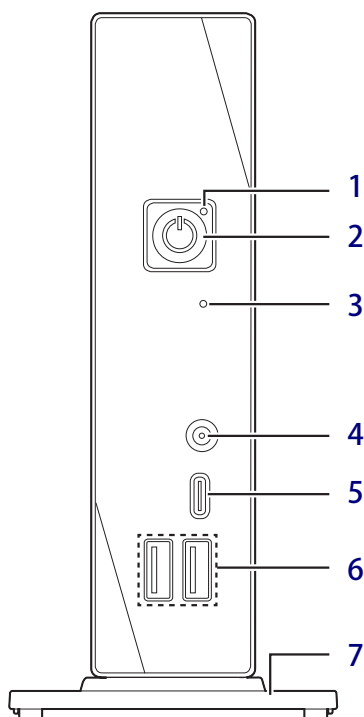
第2章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

2.1	製品本体前面	25
2.2	製品本体背面	26
2.3	製品本体内部	28
2.4	キーボード	29

2.1 製品本体前面



1 電源ランプ

本製品の状態を表示します。

LEDランプ	本製品の状態
点灯	動作状態
点滅	スリープ状態
消灯	電源オフ

2 電源ボタン

製品本体の電源を入れたり、省電力状態 (→P.47) にしたりします。

POINT

▶ キーボードの2つのキーを押すことで、電源を入れることができます。(→P.30)

3 ディスクアクセスランプ

内蔵ストレージにアクセスしているときに点灯します。

4 マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子

φ3.5mm CTIA 準拠 4極ミニプラグに対応した市販のマイク・ヘッドホン・ヘッドセットを接続します。(→P.64)

5 USB 3.2 (Gen2) Type-C コネクタ

(→P.64)

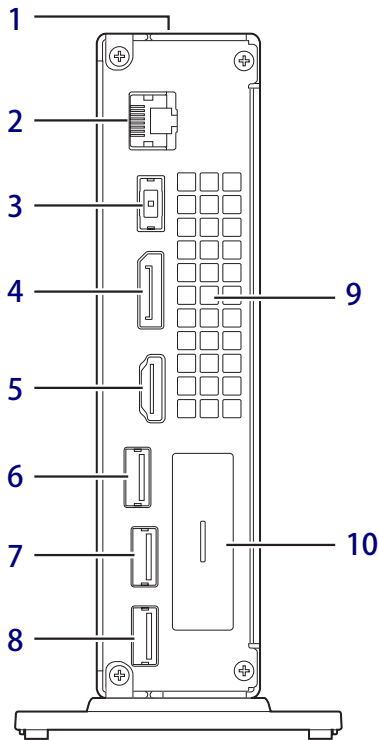
6 USB 3.2 (Gen1) Type-A コネクタ

(→P.64)

7 フット

本製品を縦置きでお使いになるときに取り付ける台座です。取り付け方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

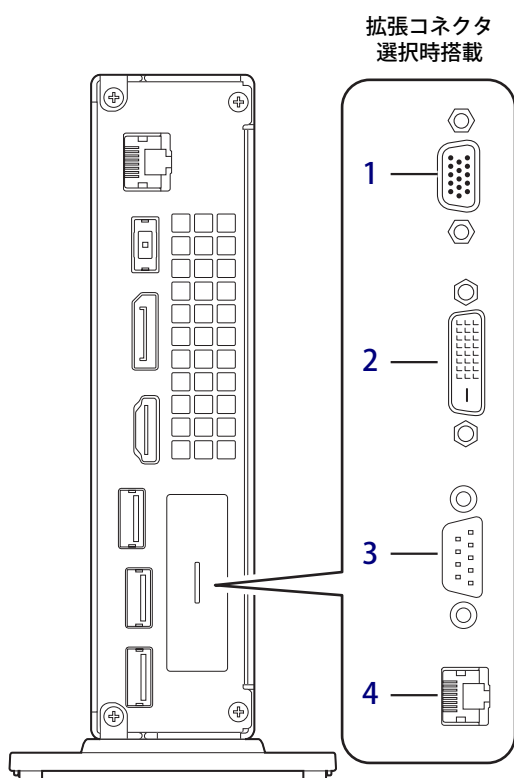
2.2 製品本体背面



- 1**  **盗難防止用ロック取り付け穴**
 盗難防止用ケーブルを取り付けます。
 弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、「カタログ/オプション品対応一覧」のページ (https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/) の「オプション品対応一覧」をご覧ください。
- 2**  **LAN コネクタ**
 (→P.65)
- 3**  **DC-IN コネクタ**
 本製品に添付のACアダプタを接続します。
- 4**  **DisplayPort コネクタ**
 (→P.62)
- 5**  **HDMI 出力端子**
 (→P.62)
- 6**  **USB 3.2 (Gen2) Type-A コネクタ**
 (→P.64)
- 7**  **USB 2.0 Type-A コネクタ**
 (→P.64)
- 8**  **USB 2.0 Type-A コネクタ**
 (→P.64)
 USBキーボードを接続するコネクタです。
 接続したキーボードは、2つのキーを押して電源を入れることができます。詳しくは「**■** 2つのキーを押して電源を入れる」(→P.30) をご覧ください。
- 9** **通風孔**
 製品本体内部の熱を外部に逃がします。
- 10** **拡張コネクタ**
 カスタムメイドで選択したコネクタが搭載されます。「**□** カスタムメイド選択時」(→P.27) をご覧ください。

□ カスタムメイド選択時

カスタムメイドで選択した拡張コネクタ※をご覧ください。
(※ 選択したいいずれかのコネクタが搭載されます。)



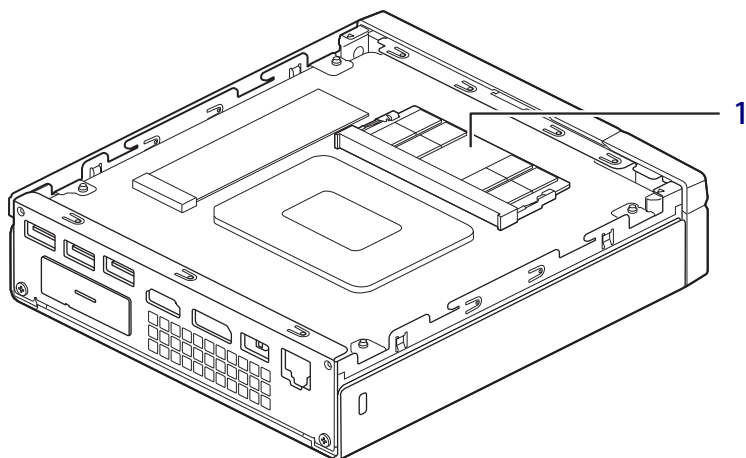
1 アナログディスプレイコネクタ
(→P.62)

2 DVI-Dコネクタ
(→P.62)

3 シリアルコネクタ
(→P.66)

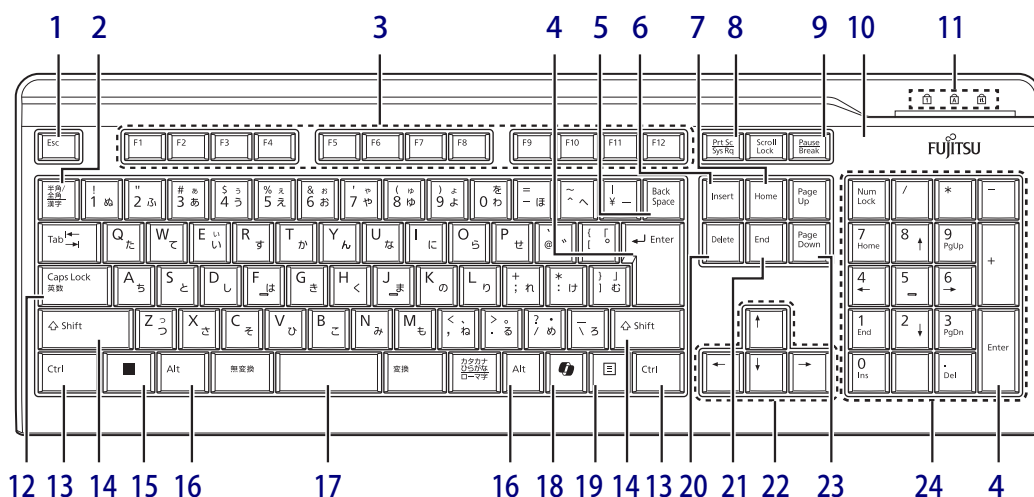
4 LANコネクタ
(→P.65)

2.3 製品本体内部



- 1 メモリスロット**
メモリを取り付けます。
(→P.60)

2.4 キーボード



- 1 【Esc】 キー
- 2 【半角／全角】 キー
日本語入力のオン／オフを切り替えます。
- 3 【F1】 ～ 【F12】 キー
- 4 【Enter】 キー
- 5 【Back Space】 キー
- 6 【Insert】 キー
- 7 【Home】 キー
- 8 【Print Screen】 キー
- 9 【Page Up】 キー
- 10 【Num Lock】 キー
テンキーのモードを切り替えます。
- 11 インジケーター
NumLock、Caps Lock、Scroll Lockの各機能のオン／オフを表示します。
- 12 【Caps Lock英数】 キー
【Shift】 キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットのの大文字／小文字の入力を切り替えます。
- 13 【Ctrl】 キー
POINT
▶ 2つの【Ctrl】 キーを押して電源を入れることができます。(→P.30)
- 14 【Shift】 キー
- 15 **POINT** (Windows) キー
「スタート」メニューを表示します。
- 16 【Alt】 キー
POINT
▶ 【Alt】 キーと【P】 キーを押して電源を入れることができます。(→P.30)
- 17 【Space】 キー
- 18 **重要** (Copilot) キー
AIアシスタント「Copilot」を起動します。
重要
▶ Windows 11 IoT Enterprise LTSC 2024はAIアシスタント「Copilot」に対応していません。接続した仮想環境側のOSがCopilotに対応している場合は、仮想環境で利用することができます。
POINT
▶ 利用できる Copilot キーの機能は、日本においてはCopilotが起動しますが、その他の国・地域により異なります。お客様の環境で利用できる機能を確認したい場合は aka.ms/keysupport をご覧ください。
- 19 **POINT** (アプリケーション) キー
選択した項目のショートカットメニューを表示します。
マウスの右クリックと同じ役割をします。
- 20 【Delete】 キー

21 【End】 キー**22 カーソルキー****23 【Page Down】 キー****24 テンキー**

「Num Lock」 インジケータ点灯時に数字が入力できます。

「Num Lock」 インジケータ消灯時にキー下段に刻印された機能が有効になります。

■ 2つのキーを押して電源を入れる

2つのキーを押すことで、製品の電源を入れることができます。

この機能を使用する場合は、BIOSセットアップの項目が表のとおりを設定されている必要があります。

POINT

- ▶ BIOSセットアップの操作については、「6.2 BIOSセットアップの操作のしかた」(→P.77) をご覧ください。
- ▶ 別売のキーボードが対応しているかについては、「カタログ/オプション品対応一覧」のページ (https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/) の「オプション品対応一覧」をご覧ください。

□ 2つの 【Ctrl】 キーを押す場合

左右2つの【Ctrl】キー(→P.29)を同時に押して電源を入れるには、次のように設定します。

メニュー	設定項目	設定値
電源管理	電源オフ時のUSB電源供給	電源ON
	キーボードによるウェイクアップ	専用キーのみ ^注

注：「使用する」に設定した場合は、キーボードの任意のキーを押して電源を入れることができます。

重要

- ▶ 本機能は次のキーボードで使用できます。
 - ・標準添付キーボード
 - ・カスタムメイドで選択したキーボード

□ 【Alt】 + 【P】 キーを押す場合

【Alt】キー(→P.29)と【P】キーを同時に押して電源を入れるには、次のように設定します。

メニュー	設定項目	設定値
電源管理	電源オフ時のUSB電源供給	電源ON
	キーボードによるウェイクアップ	専用キーのみ
		Alt+P

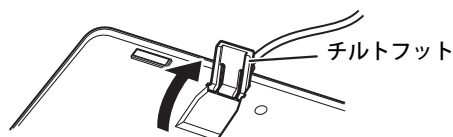
重要

- ▶ 本機能をお使いになるには、の付いているUSB 2.0 Type-Aコネクタ(→P.26)に接続してください。

■ キーボードの角度調節

キーボードの底面には、チルトフットが2ヶ所付いています。

チルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけることができます。



3

第3章

取り扱い

本製品を使用するうえでの基本操作や、本製品に取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

3.1	マウス	32
3.2	ディスプレイ	33
3.3	マルチディスプレイ機能	34
3.4	サウンド	36
3.5	省電力	47
3.6	通信	51
3.7	セキュリティチップ（TPM）	55

3.1 マウス

対象 マウス使用時

ここでは、マウスの基本設定について説明しています。

POINT


- 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」(→P.13)をご覧ください。

3.1.1 注意事項

- 光学式マウスは、マウス底面から赤い光を発しています。レーザー式マウスは、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスのセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

3.1.2 マウスの基本設定を変更する

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などは、「マウスのプロパティ」で変更できます。

- 1 「スタート」ボタン→ (設定) の順にクリックします。
- 2 「Bluetoothとデバイス」をクリックします。
- 3 「マウス」をクリックします。
それぞれの項目で設定を変更します。

3.2 ディスプレイ

ここでは、本製品に接続した1台のディスプレイを使う方法について説明しています。ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。ディスプレイを接続する方法については、「4.4.2 ディスプレイコネクタ」(→P.62)をご覧ください。複数のディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「3.3 マルチディスプレイ機能」(→P.34)をご覧ください。

POINT


- ▶ 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」(→P.13)をご覧ください。

3.2.1 注意事項

- お使いのディスプレイと本製品の両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- 解像度などを変更するときは一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 仮想環境によっては正しく表示されない場合があります。必ず事前検証をお願いします。

3.2.2 解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 2 「ディスプレイ」をクリックします。
- 3 解像度を変更します。
 1. 「ディスプレイの解像度」で設定したい解像度を選択します。
 2. 設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をクリックします。
- 4 リフレッシュレートを変更します。
 1. 「ディスプレイの詳細設定」をクリックします。
 2. 「ディスプレイを選択して、その設定を表示または変更します」でディスプレイを選択します。
 3. 「リフレッシュレートの選択」でリフレッシュレートを変更します。

POINT

- ▶ 設定可能な値は、「9.3 ディスプレイ」(→P.123)をご覧ください。
- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

3.3 マルチディスプレイ機能

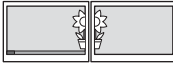
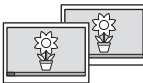
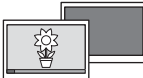
本製品に複数のディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。外部ディスプレイを接続する方法については、「4.4.2 ディスプレイコネクタ」(→P.62)をご覧ください。

POINT

- 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」(→P.13)をご覧ください。

3.3.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、複数のディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
拡張デスクトップ表示 	複数のディスプレイを1つの画面として表示します。 Windowsのタスクバーはすべてのディスプレイに表示されます。 それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
クローン表示 	複数のディスプレイに同一の画面を表示します。 すべてのディスプレイの解像度は同じである必要があります。
シングル表示 	複数のディスプレイのどれか1つに画面を表示します。 表示するディスプレイは切り替えることができます。

【Fn】 + 【P】 キーを押すことで、表示方法を選択する画面を表示できます。

3.3.2 注意事項


- お使いのディスプレイと本製品の両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、動画を再生するアプリは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。
- 2台のディスプレイを接続している場合、POST画面やBIOSセットアップ画面の表示されるディスプレイは次のようになります。

表示される優先順位	1	2
表示されるディスプレイを接続しているコネクタ	DisplayPort 注	HDMI

注：変換ケーブルを使用してディスプレイを接続すると、優先順位が下がります。

- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 仮想環境によっては正しく表示されない場合があります。必ず事前検証をお願いします。

3.3.3 マルチディスプレイ機能を設定する

- 1 「スタート」ボタン →  (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 2 「ディスプレイ」をクリックします。
- 3 画面上部の選択肢から、表示する設定を選択します。

表示画面を複製する	クローン表示になります。
表示画面を拡張する	拡張デスクトップ表示になります。
1のみに表示する	シングル表示になります。製品本体のディスプレイのみに表示します。
2のみに表示する	シングル表示になります。外部ディスプレイのみに表示します。

- 4 設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をクリックします。
- 5 必要に応じて、表示する画面の位置、明るさ、解像度、向きを選択します。

POINT

- ▶ 設定可能な値は、「9.3 ディスプレイ」(→P.123) をご覧ください。
- ▶ リフレッシュレートを変更する場合は、「3.2.2 解像度を変更する」(→P.33) の手順4を行ってください。
- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

3.4 サウンド

ここでは、音量の調節方法やオーディオ端子の機能の切り替え方法などについて説明しています。オーディオ端子に機器を接続する方法については、「4.4.4 オーディオ端子」(→P.64)をご覧ください。

POINT

- ▶ 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」(→P.13)をご覧ください。

3.4.1 全体の再生音量を調節する

本製品に接続されたヘッドホンの再生音量は、次の操作で調節します。

- 1 通知領域の「スピーカー」アイコン (🔊) をクリックします。
- 2 スライダーで音量を調節します。

3.4.2 アプリごとの再生音量を調節する

アプリごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

- 1 音量を調節するアプリを起動します。
- 2 通知領域の「スピーカー」アイコン (🔊) を右クリックし、「音量ミキサーを開く」をクリックします。
- 3 「アプリ」の一覧で、音量の設定を変更したいアプリの音量を調節します。

3.4.3 機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。

調節できる機器や項目は、「■ 再生するときに調節できる機器と項目」(→P.37)、「■ 録音するときに調節できる機器と項目」(→P.37)をご覧ください。

- 1 音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。
「4.4.4 オーディオ端子」(→P.64)
- 2 通知領域の「スピーカー」アイコン (🔊) を右クリックします。
- 3 「サウンドの設定」をクリックします。
- 4 詳細設定の「サウンドの詳細設定」をクリックします。
「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 5 「再生」タブまたは「録音」タブをクリックします。
- 6 音量を調節したい機器を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 7 「レベル」タブをクリックします。
- 8 音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をクリックします。

■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器／項目	説明
スピーカー	
Realtek HD Audio output	本製品に接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量
マイク	オーディオ端子（マイク入力設定時）から入力される音の再生音量
[ディスプレイ名] 注1注2	
インテル(R) ディスプレイ用オーディオ	ディスプレイから出力される音の再生音量

注1：「[ディスプレイ名]」には、接続されたディスプレイの名称が表示されます。

注2：次のコネクタに、音声出力に対応したディスプレイを続した場合に表示されます。

- HDMI出力端子
- DisplayPortコネクタ

■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器／項目	説明
マイク	
マイク	オーディオ端子（マイク入力設定時）から入力される音の録音音量
マイクブースト	マイクブーストのレベル（マイク入力設定時）


3.4.4 オーディオ端子の機能を切り替える

オーディオ端子（マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子）の機能は、次の手順で切り替えます。

- 1 オーディオ端子に機器を接続します（→P.64）。
- 2 「スタート」ボタン→「すべて」の「Realtek Audio Console」の順にクリックします。
- 3 「デバイス詳細設定」をクリックします。
- 4 「コネクタを再接続しています」の下に表示されているコネクタで、使用したいデバイスを選択します。

3.4.5 既定のオーディオ機器を選択する

音声を録音または再生する機器が複数使用可能な場合、既定の機器を選択できます。

- 1 通知領域の「スピーカー」アイコン（）を右クリックします。
- 2 「サウンドの設定」をクリックします。
- 3 詳細設定の「サウンドの詳細設定」をクリックします。
「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 4 「再生」タブまたは「録音」タブをクリックします。
- 5 既定に設定する機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。
- 6 「OK」をクリックします。

3.4.6 AIノイズキャンセラー

本機能はオンライン通話アプリ使用時に周囲のノイズを低減することができます。

オンライン通話などで、環境ノイズ（キーボードの打鍵音、電話の着信音、ペットの鳴き声、生活音など）を識別し、まわりのノイズを自動で低減させることで、会話をしやすくします。

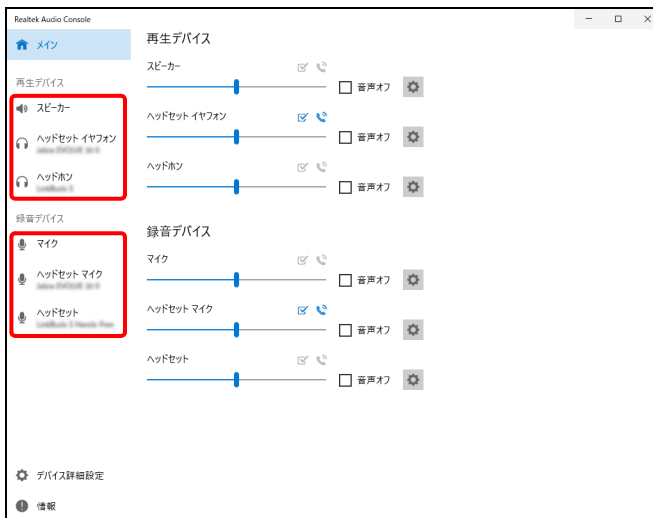
また、AI登録ボイスフォーカスモードを使用すると、登録した声を強調することができます。

■ 注意事項

- 仮想環境によっては本機能がご利用できない場合があります。必ず事前検証をお願いします。
- 一部のオンライン通話アプリおよびヘッドセットなどの接続機器によっては、本機能がご利用できない場合があります。
- 一部のオンライン通話アプリでは、本機能の設定切り替え時、オンライン通話アプリが正常に動作しなくなる場合があります。
正常に動作しなくなった場合は、オンライン通話アプリの通話を再接続、または通話アプリや製品を再起動してください。
- 本機能のご利用により製品の動作が遅く感じる場合は、他のアプリを終了させてからオンライン通話アプリをご利用ください。
- 「スピーカーノイズ除去（音声通話）」をオンにして、オンライン通話アプリで通話中に次の操作をすると、再生中の音がカットされることがあります。
その場合は、「スピーカーノイズ除去（音声通話）」をオフにしてください。
 - ・ 動画や音楽を再生する
 - ・ アプリ上で動画再生などを共有する
- 「スピーカーノイズ除去（音声通話）」をオンに設定している場合、一部のオンライン通話アプリでは通話中に製品のシステム音などがカットされることがあります。また、一部のオンライン通話アプリのオーディオテストで、テスト音が聞こえないことがあります。
その場合は、「スピーカーノイズ除去（音声通話）」をオフにしてください。
- 「AI登録ボイスフォーカスモード」を利用する場合は、事前に声の登録を行ってください。また、使用するマイクごとに声の登録が必要となります。
 - ・ 登録した声以外の声すべてを低減できるわけではありません。
 - ・ 効果が感じられない場合は再度声の登録を行ってください。
- 「AI登録ボイスフォーカスモード」をUSBヘッドセットで使用する場合、声の登録時と異なるUSBコネクタに接続すると効果が出ない場合があります。その場合は声の登録を行ってください。
- ヘッドセットなどの接続機器をお使いの場合
 - ・ 接続機器は、製品本体に接続してお使いください。
 - ・ 接続機器をはじめてお使いになる場合、機器を接続した状態で設定をオンにしてください。
 - ・ 本機能が効かない場合は、設定を一度オフにしてから再度オンにしてください。
- オーディオドライバーを最新バージョンにアップデートしてご利用ください。

■ AIノイズキャンセラーを使用する


- 1 「スタート」ボタン→「すべて」の「Realtek Audio Console」の順にクリックします。
「Realtek Audio Console」が表示されます。
- 2 マイクおよびスピーカーの効果を設定します。
 - マイクの効果を設定する場合
通話相手に自分の声を聞きやすくします。
「録音デバイス」から設定する機器をクリックします。(→P.41)
 - スピーカーの効果を設定する場合
通話相手のノイズを低減し、自身が聞きやすくします。
「再生デバイス」から設定する機器をクリックします。(→P.44)



上の画面は表示例です。

「再生デバイス」および「録音デバイス」の機器は、接続されている機器のみ表示されます。

POINT

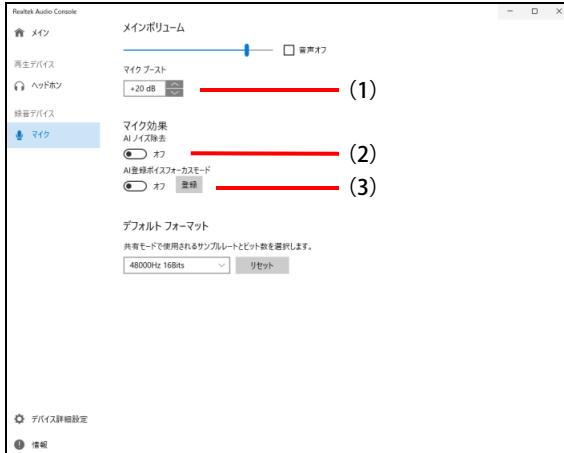
- ▶ 音量スライダー横の  をクリックしても、設定画面が表示されません。
- ▶ スピーカー内蔵ディスプレイを接続している場合、ディスプレイのスピーカーは表示されません。

■ マイクの効果を設定する

通話相手に自分の声を聞きやすくする機能です。

使用するマイクにより、表示される画面および設定項目が異なります。

● オーディオ端子に機器を接続した場合



(1) マイクの感度を調節する

マイクが拾う音の感度を調節します。

(2) AIノイズキャンセラーの設定を変更する

- ・ オン：AIノイズ除去（AIノイズキャンセラー）を有効にします。
- ・ オフ：AIノイズ除去（AIノイズキャンセラー）を無効にします。

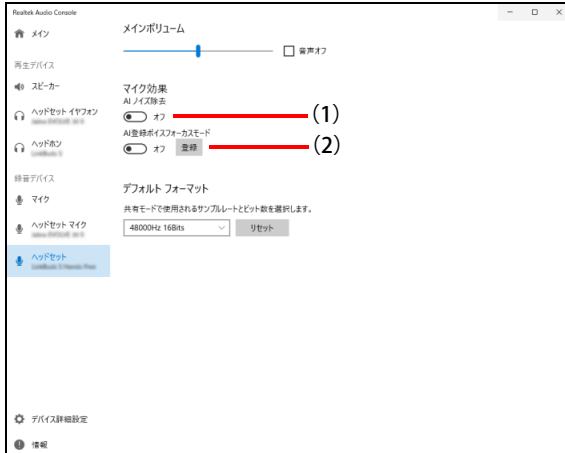
(3) AI登録ボイスフォーカスモード

事前に声を登録することで、登録した声を強調しそれ以外の声を低減することができます。

- ・ オン：オンライン通話で通話者の声を強調します。
- ・ オフ：本効果を無効にします。

※ 声を登録する場合は、「 特定の声を登録する」(→P.43)をご覧ください。

● Bluetooth接続／USBコネクタに機器を接続した場合



(1) AIノイズキャンセラーの設定を変更する

- ・ オン：AIノイズ除去（AIノイズキャンセラー）を有効にします。
- ・ オフ：AIノイズ除去（AIノイズキャンセラー）を無効にします。

(2) AI登録ボイスフォーカスモード

事前に声を登録することで、登録した声を強調しそれ以外の声を低減することができます。

- ・ オン：オンライン通話で通話者の声を強調します。
- ・ オフ：本効果を無効にします。

※ 声を登録する場合は、「□ 特定の声を登録する」（→P.43）をご覧ください。

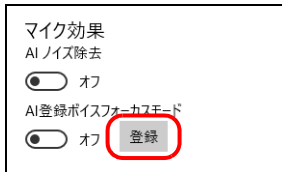
 POINT

- ▶ 接続した機器や選択した項目によっては、一部使用できない機能（グレーアウトし選択不可）があります。

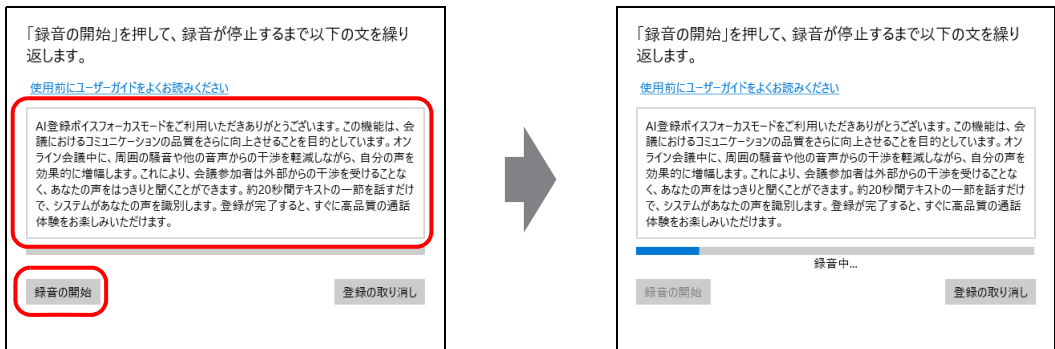
□ 特定の声を登録する

次の手順で、声を登録してください。

1 「AI登録ボイスフォーカスモード」の「登録」をクリックします。

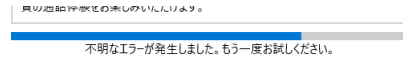
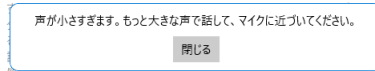


2 「録音の開始」をクリックし、囲みの文章または任意の文章を読み上げ声を録音します。読み上げている音声を検知すると、プログレスバーが進行します。

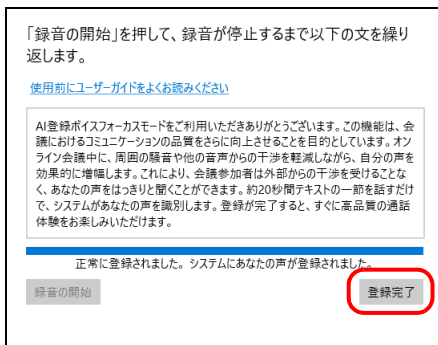


重要

- ▶ エラーが発生したときは、もう一度「登録の開始」からやり直してください。うまく録音できない場合は、次のようなメッセージが表示されます。



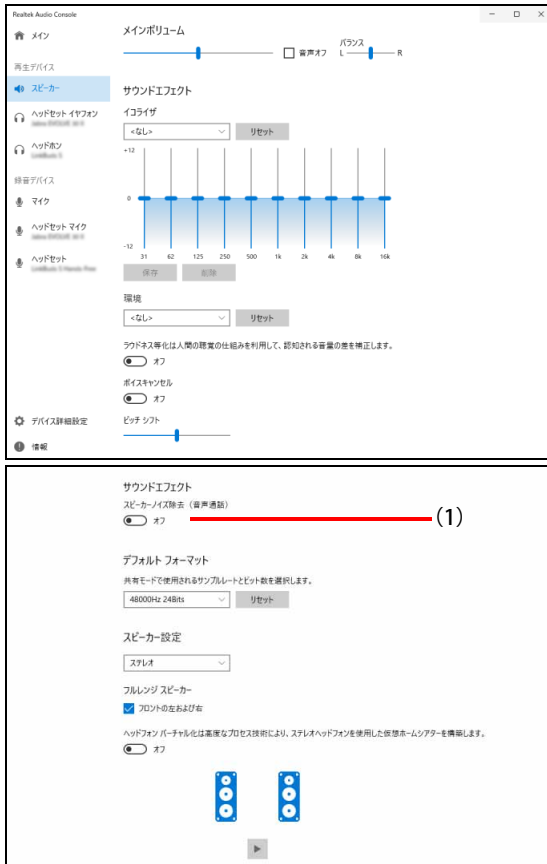
3 正常に登録されたというメッセージが表示されたら、「登録完了」をクリックします。



■ スピーカーの効果を設定する

通話相手のノイズを低減し、自身が聞きやすくなる機能です。
使用するスピーカーにより、表示される画面が異なります。

● オーディオ端子に機器を接続した場合



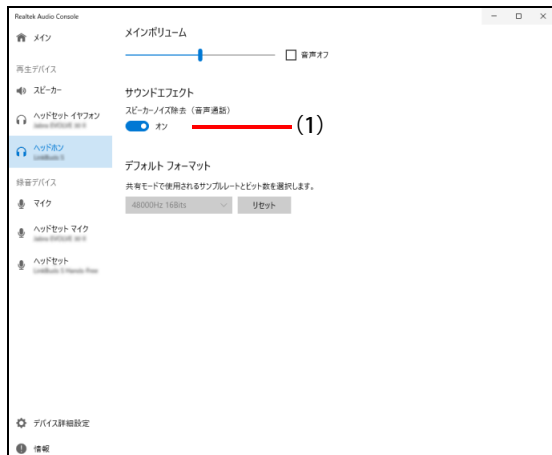
以降の項目はスクロールすると表示されます。

(1) 通話相手からのノイズを低減する

通話相手からの音声に環境ノイズが混じり、聞き取りづらいときに使用します。

- ・ オン：通話相手側のノイズを低減します。
- ・ オフ：この機能を無効にします。

● Bluetooth接続／USBコネクタに機器を接続した場合



(1) 通話相手からのノイズを低減する

通話相手からの音声に環境ノイズが混じり、聞き取りづらいときに使用します。

- ・ オン：通話相手側のノイズを低減します。
- ・ オフ：この機能を無効にします。

POINT

- ▶ 接続した機器や選択した項目によっては、一部使用できない機能（グレーアウトし選択不可）があります。

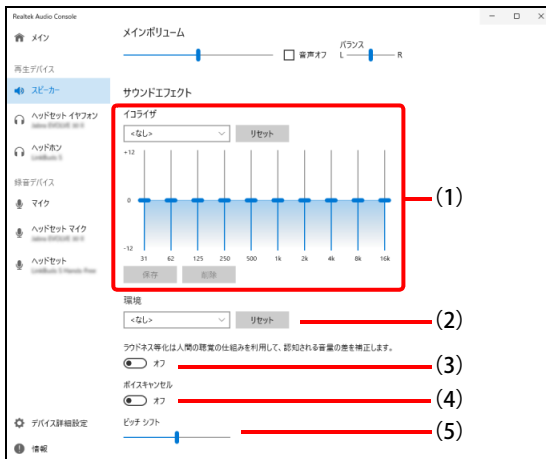
3.4.7 スピーカーの音質を調節する

スピーカーの音質を調節し、好みの音質に設定することができます。

重要

- ▶ 本設定は、オーディオ端子に機器を接続した場合にのみ利用できます。
- ▶ Bluetooth接続およびUSBコネクタに機器を接続した場合は、これら項目は表示されません。
- ▶ スピーカー内蔵ディスプレイを接続している場合、ディスプレイのスピーカーは表示されません。

- 1 「スタート」ボタン→「すべて」の「Realtek Audio Console」の順にクリックします。「Realtek Audio Console」が表示されます。
- 2 「再生デバイス」から設定する機器をクリックします。
- 3 好みの音質になるように、設定を変更します。



- (1) イコライザ : スライダーを変更することで、好みの周波数特性を設定できます。プルダウンメニューで選択したジャンルに最適な設定に変更します。
- (2) 環境 : プルダウンメニューで選択した空間音響に近い効果を得られます。
- (3) ラウドネス等化 : 音量が小さい時でも聞こえやすくします。
- (4) ボイスキャンセル : ステレオ音源の中央に位置する音（ボーカルなど）を低減します。
- (5) ピッチシフト : 曲全体の音程を調節します。

3.5 省電力

ここでは、製品を使わないときに省電力にする省電力状態と、その他の節電機能について説明しています。

POINT

- ▶ 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」(→P.13)をご覧ください。

3.5.1 省電力状態

製品を使用しないときに、画面を消灯して消費電力を抑えます。


省電力状態	説明
スリープ	メモリに作業中のデータなどを保存し、Windowsの動作を一時的に中断します。製品の電源は入っているため、電力を少しずつ消費しますが、比較的早くレジュームできます。

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 電源ボタンを押す以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。その場合は、キーボードやマウスなどから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態ですら一定時間経過すると、再度スリープ状態になります。
- 本製品は休止状態をサポートしていません。

■ 省電力状態にする

ご購入時は次のように設定されています。

製品の動作	操作/条件
スリープに移行	「スタート」ボタン→  (電源) の順にクリックし、「スリープ」を選択します。
	一定時間操作しない 「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.50)

■ 省電力状態からレジュームする

ご購入時は次のように設定されています。

製品の動作	操作/条件
スリープからレジュームする	電源ボタンを押す
	USBキーボードやUSBマウスを操作する
	Wake on LAN (WoL) 機能 ^{注1} 「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」(→P.48)

注1：ご購入時は「無効」に設定されています。



■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する

WoL機能は、他のコンピューターから有線LAN経由で本製品を起動・レジュームする機能です。本製品が次の状態のときに、起動・レジュームすることができます。

- 省電力状態からレジュームする
- 電源オフ状態から起動する

ここでは、省電力状態からレジュームする設定について説明します。

電源オフ状態からの起動については、「6.3.5 Wake on LANを有効にする」(→P.85)をご覧ください。

- 1 管理者アカウントでサインインします。
 - 2 「スタート」ボタン→ (設定) → 「システム」の順にクリックします。
 - 3 「バージョン情報」をクリックします。
 - 4 「デバイス マネージャー」をクリックします。
「デバイス マネージャー」が表示されます。
 - 5 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。
 - 6 次のデバイスをダブルクリックします。
Intel(R) Ethernet Connection I219-V
 - 7 「電源の管理」タブをクリックします。
 - 8 WoL機能を有効にするには次の項目にチェックを付け、無効にするにはチェックを外します。
 - ・電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする
-  **POINT**
- ▶ マジックパケットを受信したときのみ省電力状態からレジュームさせるようにするには、「Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」にもチェックを付けます。
- 9 「OK」をクリックします。

3.5.2 電源を切る

ここでは、Windowsを終了させて製品本体の電源を切る方法を説明します。


■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず30秒以上たってから電源を入れるようにしてください。
- 長期間使用しない場合、または電源を完全に切断する場合は、製品本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 電源の切り方

次のいずれかの方法で、製品本体の電源を切ります。

□ Windowsを終了する

- 1 「スタート」ボタン→  (電源) の順にクリックします。
- 2 「シャットダウン」をクリックします。

POINT

- ▶ 電源ボタンを押してもWindowsを終了できます。
 1. 電源ボタン (→P.25) を押します。


ご購入時の設定では、しばらくするとWindowsが終了し、製品本体の電源が自動的に切れます。

 - 電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、Windowsが正常終了せずに製品本体の電源が切れてしまいます。
 - 電源ボタンを押したときの動作を変更するには、「**■ 電源プランの設定を変更する**」(→P.50) をご覧ください。

□ 完全に電源を切る

重要

- ▶ 次のような場合は、ここで説明している手順で製品の電源を切ってください。
 - ・ BIOS セットアップを起動する
 - ・ 診断プログラムを使用する
 - ・ メモリを交換する
 - ・ 内蔵フラッシュメモリデータ消去

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) の順にクリックします。
- 2 「システム」→ 「回復」の順にクリックします。
- 3 「PCの起動をカスタマイズする」の「今すぐ再起動」をクリックします。
- 4 「今すぐ再起動」をクリックします。
- 5 「PCの電源を切る」をクリックします。

3.5.3 省電力設定

使用状況にあわせて電源プランを切り替えることで、消費電力を節約できます。

■ 電源プランを切り替える

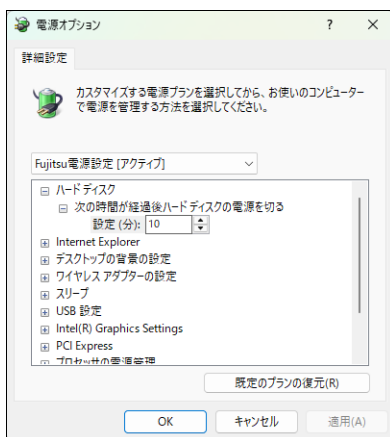
- 1 「コントロールパネル」ウィンドウ (→P.8) を表示します。
- 2 「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプション」が表示されます。
- 3 お使いになる電源プランをクリックします。

□ 新規に電源プランを作成する場合

- 1 「電源オプション」ウィンドウ左のメニューで「電源プランの作成」をクリックします。
「電源プランの作成」ウィンドウが表示されたら、メッセージに従って操作します。

■ 電源プランの設定を変更する

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウ (→P.8) を表示します。
- 2 「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプション」が表示されます。
- 3 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
- 4 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。



(表示されるリストは、
お使いの機種により異なります。)

- 5 リストから項目を選択し、設定を変更します。

POINT

- ▶ 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

- 6 「OK」をクリックします。

3.6 通信

ここでは本製品の通信機能について説明しています。

ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「9.1 本体仕様」(→P.117)をご覧ください。

重要

- ▶ 無線LAN搭載機種で有線LANと無線LANを同時に使用する場合は、同じネットワークに接続しないでください。環境によっては、通信が不安定になったり途切れたりする可能性があります。
- ▶ 仮想環境へリダイレクトしての使用は、サポートしていません。

POINT

- ▶ 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」(→P.13)をご覧ください。

3.6.1 有線LAN

LANケーブルを接続する方法については、「4.4.5 LANコネクタ」(→P.65)をご覧ください。


LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ 注意事項

- Link速度を100/10Mbpsに固定して接続する場合、オートネゴシエーションのみサポートしているネットワーク機器では、「デュプレックス」の設定は「半二重/Half Duplex」に設定してください。「全二重/Full Duplex」に設定すると、次のような問題が発生する場合があります。
 - ・ Linkランプが点灯しない
 - ・ 通信できない
 - ・ 通信速度が異常に遅い
- 本製品に搭載されているLANデバイスには節電機能があります。この機能は、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れると、通信速度を下げることで電力消費を抑えるものです。節電機能が有効に設定されていると、次の条件にすべて一致する環境でお使いの場合に、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れるときに通信エラーが発生することがあります。
 - ・ LANデバイスの設定で、「速度とデュプレックス」が「オートネゴシエーション」に設定されているとき(ご購入時の設定)
 - ・ 本製品を、オートネゴシエーションが可能なネットワーク機器と接続しているときこれにより問題がある場合は、「■ LANデバイスの節電機能の設定を変更する」(→P.52)をご覧ください。この機能を無効に設定してください。(本製品の節電設定は、ご購入時は有効に設定されています。)

■ LANデバイスの節電機能の設定を変更する

LANデバイスの節電機能の設定を変更するには、次の操作を行います。

- 1 管理者アカウントでサインインします。
- 2 「スタート」ボタン→ (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 3 「バージョン情報」をクリックします。
- 4 「デバイスマネージャー」をクリックします。
「デバイスマネージャー」が表示されます。
- 5 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。
- 6 次のデバイスをダブルクリックします。
Intel(R) Ethernet Connection I219-V
- 7 「詳細設定」タブをクリックします。
- 8 「プロパティ」で「システム無動作時の節電機能」をクリックし、「値」で「有効 (オン)」または「無効 (オフ)」を選択します。
- 9 「OK」をクリックします。


3.6.2 無線LAN

対象 無線LAN搭載機種

無線LANについては、『無線LANご利用ガイド』をご覧ください。
無線LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。
また、無線LANの仕様については、「9.4 無線LAN」(→P.124)をご覧ください。

■ 無線LANの種類を確認する

搭載されている無線LANの種類を確認するには、次の操作を行います。

- 1 「スタート」ボタン→ (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 2 「バージョン情報」をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャー」をクリックします。
「デバイスマネージャー」が表示されます。
- 4 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。
本製品に搭載されている無線LANの種類が表示されます。

3.6.3 Bluetooth ワイヤレステクノロジー

対象 Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載機種


Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやワイヤレスキーボード、携帯電話などの周辺機器や他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載の製品などに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。Bluetooth ワイヤレステクノロジーについては、『Bluetooth ワイヤレステクノロジーご利用ガイド』をご覧ください。

また、Bluetooth ワイヤレステクノロジーのバージョンについては、「9.1 本体仕様」(→P.117)をご覧ください。

3.6.4 無線通信機能の電波を発信する／停止する

電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。電波の発信／停止は次の方法で変更できます。

■ 設定方法

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「ネットワークとインターネット」の順にクリックします。
- 2 「機内モード」をクリックします。
- 3 「機内モード」または「ワイヤレス デバイス」でそれぞれの設定を切り替えます。

	「オン」に設定	「オフ」に設定
機内モード	すべての無線通信機能の電波を停止 ^注	機内モードを解除 ^注
ワイヤレス デバイス	電波を発信	電波を停止

注 : 機内モードの「オン」「オフ」それぞれに対し、ワイヤレス デバイスの状態を個別に設定できます。

■ 機内モードについて

機内モードとは、製品に搭載されている無線通信機能の電波を一斉に停止する機能です。機内モードを「オン」にすると、すべての無線通信機能の電波が「停止」します。

また、機内モードの「オン」「オフ」に対して、ワイヤレス デバイスの状態（オン/オフ）を個別に設定することもできます。

● ワイヤレス デバイスの個別設定

ワイヤレス デバイスの設定状態を、「機内モード」の「オン」「オフ」のときそれぞれに対し個別に設定すると、ワイヤレス デバイスの設定状態が保持されます。

例：Bluetoothのみを個別に設定した場合

1. 「機内モード」が「オン（電波停止）」のときに、Bluetoothを個別に「オン（電波発信）」にします。
2. その後「機内モード」を「オフ（電波発信）」にすると、ワイヤレス デバイスはすべて「オン」になります。
3. 再度「機内モード」を「オン（電波停止）」にしても、Bluetoothは手順1で設定した状態を保持するため「オン」のままとなります。

上記の個別設定を解除する場合は、「機内モード」を「オン（電波停止）」にしてBluetoothを「オフ」にしてください。

また、「機内モード」が「オフ（電波発信）」のときに個別に設定した場合も、同様にワイヤレス デバイスの設定状態が保持されます。

3.7 セキュリティチップ (TPM)

セキュリティチップ (TPM) は、ドライブを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などを内蔵フラッシュメモリに残さないため、内蔵フラッシュメモリが盗まれても暗号を解析できません。

POINT

- ▶ すべてのソリューションの動作保証をするものではありません。必ず事前検証をお願いします。

4

第4章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

4.1 周辺機器を取り付ける前に	57
4.3 メモリ	60
4.2 本体カバー	58
4.4 コネクタの接続／取り外し	62

4.1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

4.1.1 注意事項

- 本製品に対応している弊社純正品をお使いください。
詳しくは、「カタログ/オプション品対応一覧」のページ (https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/) の「オプション品対応一覧」をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 電源を切った直後は、製品本体内部が熱くなっています。電源を切り、電源ケーブルを抜いた後、十分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となります。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付け後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われなかったことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてから製品本体の電源を入れ、製品本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

4.2 本体カバー

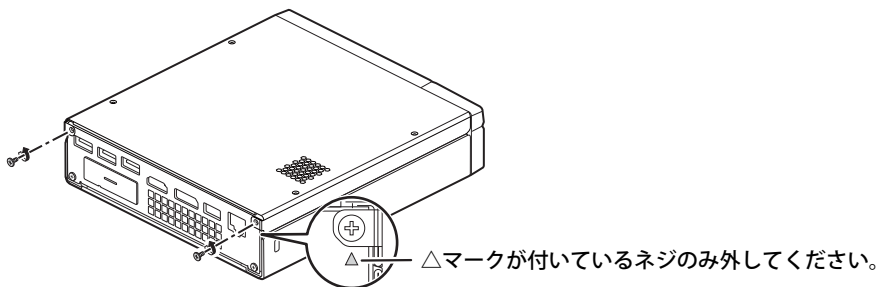
製品本体内部に周辺機器を取り付けたり取り外したりする場合には、本体カバーを取り外す必要があります。ここでは本体カバーの取り付け／取り外し方法について説明しています。必ず「4.1 周辺機器を取り付ける前に」(→P.57)をお読みになってから作業をしてください。

4.2.1 注意事項

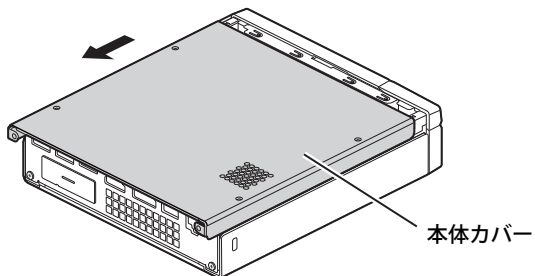
- 本体カバーを取り外す、または取り付けるときは、必ず製品本体の電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。電源の切り方については、「3.5.2 電源を切る」(→P.49)をご覧ください。
また、本体カバーを取り外した状態では、電源ケーブルを製品本体に接続しないでください。
- 作業は製品本体が滑らないような平らな台の上で行ってください。
- 本体カバーを取り外す、または取り付けるときは、指をはさんだり、つめを傷付けたりしないように注意してください。
- プラスドライバーを用意してください。

4.2.2 本体カバーを取り外す

- 1 製品本体および接続されている周辺機器の電源を切り、電源ケーブルを抜きます。
- 2 フット(→P.25)を取り付けている場合は、フットを取り外します。
- 3 製品本体を横置きにします。
- 4 製品本体背面の、△マークがあるネジ2ヶ所を取り外します。

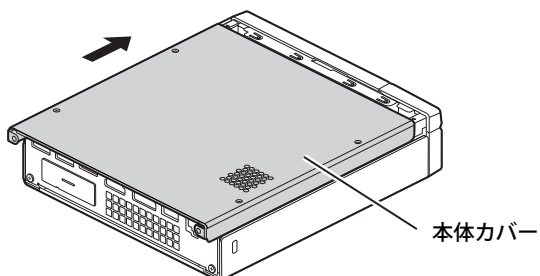


- 5 本体カバーを製品本体背面側にスライドして取り外します。

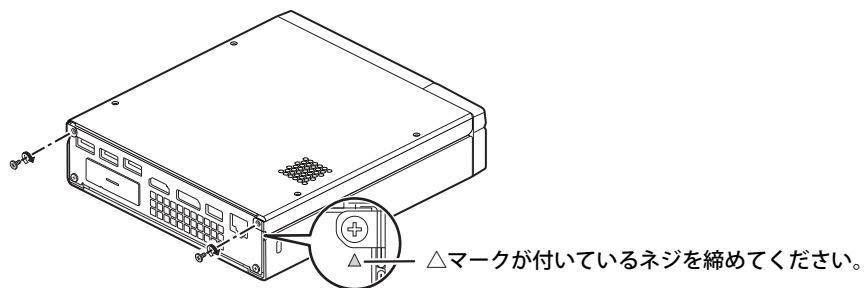


4.2.3 本体カバーを取り付ける

- 1 被せるように本体カバーを下ろし、本体前面側にスライドさせます。



- 2 製品本体背面の、△マークがあるネジ2ヶ所を締めます。



4.3 メモリ

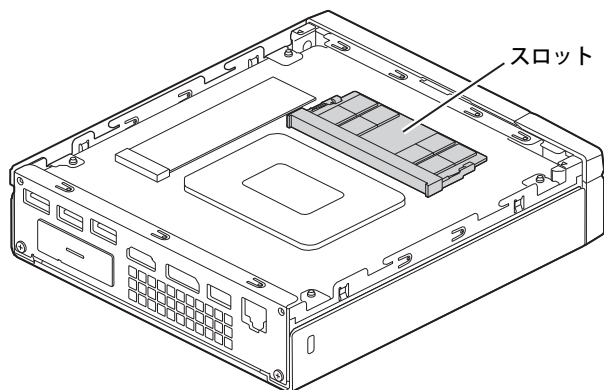
ここでは、本製品にメモリを取り付ける方法について説明しています。
必ず「4.1 周辺機器を取り付ける前に」(→P.57)をお読みになってから作業をしてください。

4.3.1 注意事項

- メモリを取り付ける、または取り外すときは、必ず製品本体の電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。電源の切り方については、「3.5.2 電源を切る」(→P.49)をご覧ください。
- メモリは静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリはふちを持ち、端子やICなどそれ以外の箇所に触れないようにしてください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。故障や接触不良の原因となります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となります。
- メモリ増設後、本製品の起動に時間がかかる場合がありますが、「FUJITSU」ロゴが表示されるまでそのままお待ちください。

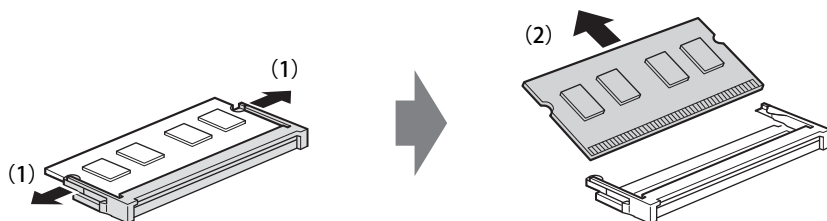
4.3.2 メモリを取り付ける

- 1 本体カバーを取り外します (→P.58)。
- 2 メモリスロットの位置を確認します。

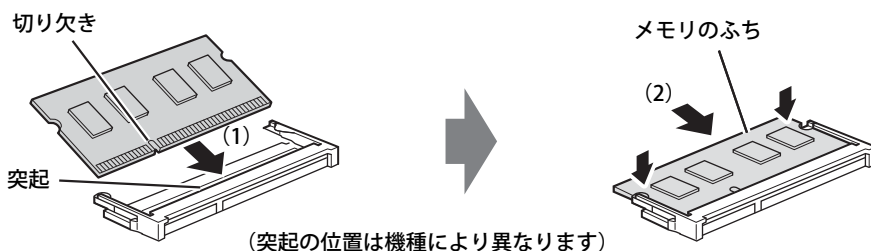


3 メモリを取り付けるメモリスロットにメモリが取り付けられている場合は取り外します。

1. メモリスロットの両側のフックを外側に開いてメモリの固定を解除します。
2. メモリのふちを持って斜め上にまっすぐ引き抜きます。

**4** メモリを取り付けます。

1. メモリの切り欠き部とメモリスロットの突起を合わせ、斜め上から奥まで差し込みます。
2. メモリのふちを押しながらメモリを下に倒します。メモリスロット両側のフックがメモリを固定していることを確認してください。

**重要**

- ▶ メモリがうまく取り付けられないときは、無理に取り付けず、いったんメモリを抜いてからもう一度メモリを取り付けてください。

5 本体カバーを取り付けます (→P.59)。**6** BIOSセットアップを起動して、メモリが正しく認識されていることを確認します。

「6.2 BIOSセットアップの操作のしかた」(→P.77) をご覧になり、「情報」メニューを表示してメモリ容量を確認してください。

重要

- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときにエラーメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりすることがあります。その場合は電源ボタンを4秒以上押して本製品の電源を切り、メモリを取り付け直してください。それでも本製品が起動しない場合は、故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。

4.3.3 メモリを取り外す

メモリを取り外す場合も、取り付けの手順をご覧ください。

重要

- ▶ 取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。

4.4 コネクタの接続／取り外し

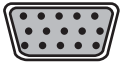
ここでは、周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「9.1 本体仕様」(→P.117)をご覧ください。

必ず「4.1 周辺機器を取り付ける前に」(→P.57)をお読みになってから作業をしてください。

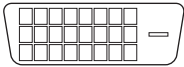
4.4.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなったり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前に確認してください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらず製品本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

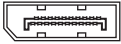
4.4.2 ディスプレイコネクタ



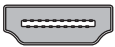
アナログディスプレイコネクタ



DVI-Dコネクタ



DisplayPortコネクタ



HDMI出力端子

ディスプレイを接続します。製品本体の電源を切ってから接続してください。

重要

- ▶ DisplayPortは、別売の変換ケーブルを使用することができます。
 - ・ アナログ接続をする場合は、「DP→VGA変換ケーブル」を使用してください。最大解像度は1920×1200です。
 - ・ DVI接続をする場合は、「DP→DVI変換ケーブル」を使用してください。最大解像度は1920×1200です。
 - ・ HDMI接続をする場合は、「DP→HDMI変換ケーブル」を使用してください。最大解像度は3840×2160、リフレッシュレートは30Hzです。

■ 接続する

- 1 製品本体の電源を切ります。
- 2 ディスプレイコネクタに、ディスプレイのケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。
次のコネクタをお使いの場合、コネクタのネジを締めてください。
 - ・アナログディスプレイコネクタ
 - ・DVI-Dコネクタ
- 3 ディスプレイの電源を入れてから、製品本体の電源を入れます。

■ 取り外す

重要

- ▶ マルチディスプレイ機能 (→P.34) をお使いになっている場合は、取り外すディスプレイに画面が表示されないようにしてからディスプレイを取り外してください。

□ アナログディスプレイコネクタ

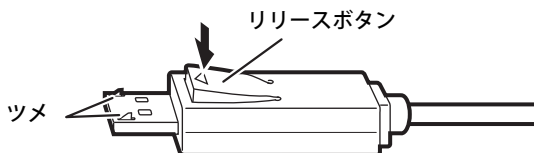
- 1 製品本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。
コネクタのネジを緩めてからケーブルを引き抜いてください。

□ DVI-Dコネクタ

- 1 製品本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。
コネクタのネジを緩めてからケーブルを引き抜いてください。

□ DisplayPortコネクタ

- 1 製品本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 コネクタのツメを押さえながら、まっすぐに引き抜きます。
リリースボタンを押すことでツメが引込み、製品本体から外れます。



□ HDMI出力端子

- 1 製品本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

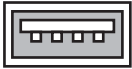
4.4.3 USBコネクタ



USB Type-Cコネクタ



USB 3.2 Type-Aコネクタ (青色)



USB 2.0 Type-Aコネクタ (黒色)

USB対応周辺機器を接続します。製品本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

- 1 USBコネクタに、USB対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。


POINT

- ▶ USB Type-Cコネクタは、どちらの向きでも差し込むことができます。

■ 取り外す

重要

- ▶ USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- 1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。
 1. 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン () をクリックします。
 2. 取り外すデバイスをクリックし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

4.4.4 オーディオ端子

オーディオ機器を接続します。製品本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

重要

- ▶ マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子にオーディオ機器を接続したり取り外したりするときは、オーディオ機器の再生音量を小さくするか、再生を停止してください。

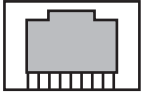
■ 接続する

- 1 マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子に、オーディオ機器のケーブルを接続します。
まっすぐに差し込んでください。

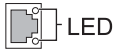
■ 取り外す

- 1 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

4.4.5 LANコネクタ



LANケーブルを接続します。製品本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。
ただし、電源を入れたまま接続すると、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。
LEDの意味は、次のとおりです。



	上部LED (Link/Act)	下部LED (Speed)
1000MbpsでLinkを確立	緑色点灯 ^注	オレンジ点灯
100MbpsでLinkを確立	緑色点灯 ^注	緑色点灯
10MbpsでLinkを確立	緑色点灯 ^注	消灯

注：データ転送中は緑色点滅

重要

- ▶ 1000BASE-Tの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリ5（カテゴリ5E）以上のLANケーブルを使用してください。

■ 接続する

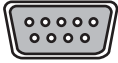
- 1 LANコネクタにネットワーク機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

- 1 ケーブルコネクタのツメを押さえながら、LANケーブルをまっすぐに引き抜きます。

4.4.6 シリアルコネクタ

対象 シリアルコネクタ搭載機種



シリアル対応周辺機器を接続します。製品本体の電源を切ってから接続または取り外しを行ってください。

■ 接続する

- 1 製品本体の電源を切ります。
- 2 シリアルコネクタにシリアル対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込み、コネクタのネジを締めてください。
- 3 シリアル対応周辺機器の電源を入れてから、製品本体の電源を入れます。

■ 取り外す

- 1 製品本体の電源を切ってから、シリアル対応周辺機器の電源を切ります。
- 2 コネクタのネジを緩め、ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

5

第5章

アプリ

本製品にプレインストール（添付）されているアプリの概要や、インストール、アンインストール方法を説明しています。

5.1 アプリの紹介	68
5.2 インストール	71
5.3 アンインストール	73

5.1 アプリの紹介

ここでは、本製品にプレインストールまたは添付されているアプリの概要と、ご購入時の提供形態を説明しています。

ご購入時にインストールされているアプリは、削除してしまったり、データやファイルが破損したりした場合に再インストールできるように、「リカバリ起動ディスク」などに格納されています。各アプリの格納場所は、次ページ以降の一覧表で確認してください。

その他の情報については次をご覧ください。

- アプリの使い方
ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
- インストール方法
「5.2 インストール」(→P.71) をご覧ください。
- 一部のアプリ
インターネット上のマニュアル (<https://www.fmworld.net/biz/fmv/support/fmvmanual/>) の機能別のマニュアルをご覧ください。

5.1.1 一覧表の見かた

アプリ一覧表の欄にある項目や記号について説明します。

□ OS欄について

本製品は、プリインストールOSおよびサポートOSのアプリを提供しています。アプリ一覧表の対象OS欄で、次のように表記しています。

- 11 : Windows 11用
- 10 : サポートOSのWindows 10用

□ 提供形態について

- : ご購入時にインストール済み
- ◆ : ご購入時にインストール済み(「ドライバズディスク」にも格納されています)
- ▲ : 「ドライバズディスク」に格納(ご購入時はインストールされていません)
- : 起動メニューより選択(→P.79)
- : 搭載されていないか、対象となる機種がありません

□ ディスクについて

「ドライバズディスク」は、本製品の内蔵フラッシュメモリに格納されています。ディスクがお手元がない場合は、内蔵フラッシュメモリからディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

5.1.2 ネットワーク関係のアプリ

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.68)をご覧ください。

対象OSの表記 11：Windows 11用、10：サポートOSのWindows 10用

名称	概要／提供形態	対象OS	
		11	10
リモートデスクトップ接続	Microsoftが提供するリモートデスクトップサービスを利用するためのアプリです。Windowsを搭載した物理端末へ接続する場合にお使いいただけます。	●	—
Microsoft Edge	本製品にインストールされているMicrosoft Edgeは、クライアント仮想化システムへのWebインターフェイス（Receiver for Web接続）としてのみお使いいただけます。インターネット閲覧は、必ずサーバー側のブラウザをお使いください。	●	—

5.1.3 セキュリティ関連のアプリ

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.68)をご覧ください。

対象OSの表記 11：Windows 11用、10：サポートOSのWindows 10用

名称	概要／提供形態	対象OS	
		11	10
AuthConductor Client Basic	次のセキュリティデバイス ^(※1) などを使用するためのアプリです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指紋センサー ・ 手のひら静脈センサー ・ Webカメラ^(※2) <p>※1 セキュリティデバイスを使用するには、それぞれの外付けデバイスの購入が必要となります。</p> <p>※2 お使いになるには、別売の「AuthConductor Client 顔認証オプションV2」が必要となります。</p>	▲	▲
Systemwalker Desktop Keeper for Standalone	USBデバイスの使用を許可するかどうか、USBデバイスに対する操作を記録するかどうかを設定できます。 不要なUSBデバイスの使用を制限することで、情報漏洩リスクを軽減し、記録した操作の確認により情報の持ち出しを監視／監査できます。	▲	▲
Windows Defender	マルウェアから保護するための対策アプリです。 定期的に定義ファイルの更新プログラムを最新状態に保持するため、「8.2 よくあるトラブルと解決方法」の「Q.UWF の保護が有効な状態で Windows Defenderを使用するには」(→P.102)をご覧ください。記載の設定内容を行う必要があります。	●	—

5.1.4 サポート関連のアプリ

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.68)をご覧ください。

対象OSの表記 11：Windows 11用、10：サポートOSのWindows 10用

名称	概要／提供形態	対象OS	
		11	10
富士通ハードウェア診断ツール	ハードウェアに障害が発生していないか診断できます。 詳しくは、「8.1.5 診断プログラムを使用する」(→P.93)をご覧ください。	■	—
モデル情報表示ユーティリティ	本製品の情報（型名／製造番号／カスタムメイド番号）を確認することができます。	◆	▲

5.1.5 ユーティリティ

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」(→P.68)をご覧ください。

対象OSの表記 11：Windows 11用、10：サポートOSのWindows 10用

名称	概要／提供形態	対象OS	
		11	10
Dolby Digital Plus Codec	Dolby DigitalおよびDolby Digital Plusコンテンツを再生するアプリです。	注1	—
Intel® Graphics Software	ディスプレイの解像度の変更や、マルチディスプレイ機能の設定を行います。 ・「ドライバズディスク」内の「readme.txt」については、「インテル(R) ディスプレイドライバー 64ビット版」に格納されています。	●	—
Realtek Audio Console	接続したオーディオ端子を切り替えたり、音量を調節したりします。 ・「ドライバズディスク」内の「readme.txt」については、「Realtek High Definition Audio オーディオドライバー」に格納されています。	●	—
Systemwalker Desktop Patrol CT	本製品や周辺機器（プリンタやFaxなど）のICT資産全体を、セキュリティ管理と資産管理の両面から一元管理するためのアプリです。 本アプリを使用するためには、Systemwalker Desktop PatrolのCS（管理サーバー）を別途手配し構築していただく必要があります。 詳しくは、ソフトウェア技術情報ホームページ（ https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/technical/systemwalker/desktoppatrol/ ）をご覧ください。	◆	▲
静音ユーティリティ	製品の内部の冷却ファンを調整し、音を静かにできるユーティリティです。 ・静音モード：CPUパフォーマンスを制御して発熱を抑え、冷却ファンをゆっくり回転します。 ・通常モード：CPUパフォーマンスを優先します。	●注2	注3
ディスク作成ユーティリティ	リカバリディスクを作成するときに使用するアプリです。	◆	—
ドライバズディスク検索	ドライバーやアプリをインストールするときに使用するアプリです。	◆	—
保護管理ツール	書込保護機能に関する各種設定を行うためのアプリです。 詳しくは、「1.4 保護管理ツール」(→P.15)をご覧ください。	●	—

注1：「Dolby Digital Plus Codec」はご購入時にインストールされています。

本アプリは「ドライバズディスク」には格納されていません。また再インストールもできません。

注2：本アプリは「ドライバズディスク」には格納されていません。

再インストールする場合は、ストアから本アプリをインストールする必要があります。

「ドライバズディスク」内にある「Readme.txt」をご覧になり、ストアのURLやインストール時の注意をご確認ください。

注3：本アプリをインストールする場合は、ストアからインストールする必要があります。

「ドライバズディスク」内にある「Readme.txt」をご覧になり、ストアのURLやインストール時の注意をご確認ください。

5.2 インストール

次のアプリをお使いになるにはインストールが必要です。手順に従ってインストールしてください。

POINT

- ▶ アプリのインストールは、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」の状態で行うと再起動後に設定が削除され、インストール前の状態に戻ってしまいます。書込保護機能については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」(→P.13)をご覧ください。アプリをインストールし設定を行った後は、書込保護機能を「有効」にしてください。

5.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール

重要

- ▶ ディスクからインストールする場合は、別売の外付け光学ドライブを接続してください。
- ▶ 本製品にプリインストールされているアプリやドライバーの一部は、ドライバーズディスク検索に格納されていないものもあります。再インストールする場合には、ストアからインストールする必要があります。各アプリやドライバーのフォルダに格納されている「Readme.txt」に、ストアのURLやインストール時の注意について記載していますので、必ずご確認ください。
- ▶ 「ドライバーズディスク」は、本製品の内蔵フラッシュメモリに格納されています。ディスクがお手元がない場合は内蔵フラッシュメモリからディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。
- ▶ ドライバーやアプリのアップデート版は、弊社アップデートサイトに公開されています。システムの安定稼働のため、常に最新版のドライバーやユーティリティを適用することをお勧めします。なお、本製品に搭載されているすべてのドライバーやアプリが公開されているわけではありません。

「ドライバーズディスク」とフラッシュメモリに格納されているアプリやドライバーは、「ドライバーズディスク検索」からインストールできます。

1 次の操作を行います。

●ディスクからインストールする場合

1. ディスクをセットします。
「ドライバーズディスク検索」が起動します。

POINT

- ▶ 画面右下にメッセージが表示された場合は、そのメッセージをクリックし、続けて「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックしてください。
 - ▶ 「ドライバーズディスク検索」が起動しない場合は、次のように操作してください。
 1. 「スタート」ボタンを右クリックし、「エクスプローラー」をクリックします。
 2. ウィンドウ左の「PC」をクリックします。
 3. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をクリックします。
 4. 「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックします。
- 内蔵フラッシュメモリのデータからインストールする場合
1. 「スタート」ボタン→「すべて」の「ドライバーズディスク検索 (ハードディスク)」の順にクリックします。
 2. メッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
「ドライバーズディスク検索」が起動します。

- 2 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。
- 3 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。
- 4 「種別」に「すべて」を選択します。
- 5 インストールするアプリを選択します。
「内容」に、インストールするアプリのフォルダーが表示されます。
- 6 「インストール方法の確認」をクリックします。
Readmeなどのテキストファイルを選択するウィンドウが表示されます。

重要

- ▶ 「表示可能なファイルがありません。」というメッセージが表示された場合
「内容」に表示されている「readme」から始まるファイルをダブルクリックして、ファイルを開いてください。
- 7 テキストファイルを選択し、「開く」をクリックします。
テキストファイルの手順に従って、ドライバーをインストールしてください。
ドライバーのインストール完了後、本製品が再起動します。

5.2.2 「AuthConductor Client Basic」のインストール

「AuthConductor Client Basic」は「ドライバーズディスク」に格納されていますが、インストールの方法や順番が、他のアプリとは異なります。「AuthConductor Client Basic」のインストール方法については、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

5.3 アンインストール

POINT

- ▶ アプリのアンインストールは、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」の状態で行くと再起動後に設定が削除され、アンインストール前の状態に戻ってしまいます。書込保護機能については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」(→P.13)をご覧ください。アプリをアンインストールした後は、書込保護機能を「有効」にしてください。

5.3.1 注意事項

アプリをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- アプリをすべて終了してからアンインストールを始めること
- DLLファイルは削除しないこと

アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

「このDLLは複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」

このDLLファイルを削除すると、他のアプリが正常に動作しなくなることがあります。アプリのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合はDLLファイルは削除しないことをお勧めします。

5.3.2 アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
アプリにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する
次の手順で削除することができます。
 1. 「コントロールパネル」ウィンドウ (→P.8) を表示します。
 2. 「プログラム」→「プログラムと機能」の順にクリックします。
「プログラムと機能」が表示されます。
 3. 削除したいアプリを右クリックし、表示されたメニューから「アンインストール」を選択します。

アンインストール方法はアプリによって異なります。詳しくは、各アプリのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

重要

- ▶ 次の認証デバイス (※1) のドライバーをアンインストールするときは、「AuthConductor Client Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
認証デバイスドライバーのアンインストール方法については、「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
 - ・ Webカメラ (※2)
 - ・ 指紋センサー
 - ・ 手のひら静脈センサー
- ▶ 「AuthConductor Client Basic」のアンインストール方法については、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

※1 認証デバイスを使用するには、それぞれの外付けデバイスの購入が必要となります。

※2 お使いになるには、別売の「AuthConductor Client 顔認証オプションV2」が必要となります。

6

第6章

BIOS

BIOSセットアップについて説明しています。

6.1	BIOSセットアップ	76
6.2	BIOSセットアップの操作のしかた	77
6.3	設定事例集	80

6.1 BIOSセットアップ

BIOSセットアップは、メモリや内蔵フラッシュメモリなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本製品ご購入時には、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。次のような場合にBIOSセットアップの設定を変更します。

- 特定の人だけが本製品を利用できるように、本製品にパスワードを設定するとき
- 起動デバイスを変更するとき
- セキュリティチップの設定を変更するとき
- セキュアブートの設定を変更するとき
- Wake on LANの設定を変更するとき
- Wake on RTCを有効にする
- 起動時の自己診断（POST）にBIOSセットアップをうながすメッセージが表示されたとき

重要

- ▶ BIOSセットアップの設定は、必ず電源を切ってから行ってください。電源の切り方は、「3.5.2 電源を切る」（→P.49）をご覧ください。
- ▶ BIOSセットアップは正確に設定してください。
設定を間違えると、本製品が起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本製品を再起動してください。
- ▶ 起動時の自己診断中は、電源を切らないでください。
- ▶ 無線LAN搭載機種の場合は、次のときにBluetoothワイヤレステクノロジーで、キーボード/マウスを接続することができません。
 - BIOSセットアップ
 - 起動メニュー
 - 診断プログラムこれらの操作には、USBのキーボード、マウスを用意してください。

6.2 BIOSセットアップの操作のしかた

ここでは、BIOSセットアップの起動と終了、および基本的な操作方法について説明しています。

6.2.1 BIOSセットアップを起動する

POINT

- ▶ Windowsが起動してしまった場合は、本製品の電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「3.5.2 電源を切る」(→P.49)をご覧ください。

1 【F2】キーを押したまま、本製品の電源を入れます。

2 ビープ音が鳴ったら、【F2】キーを離します。

BIOSセットアップ画面が表示されます。

パスワード入力画面が表示された場合はパスワードを入力(→P.82)してください。

6.2.2 BIOSセットアップ画面

BIOSセットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

各項目についての説明は「項目ヘルプ」を、操作方法は「キー一覧」をご覧ください。

The screenshot shows the BIOS Setup Utility interface. At the top, there is a menu bar with options: 情報, システム, 詳細, セキュリティ, 電源管理, 起動, 終了. The main display area is split into two columns. The left column lists settings: システム時刻 [16:43:57], システム日付 [08/19/2021], 言語 (Language) [日本語 (JP)], キーボードレイアウト [日本語], and ポインティングデバイスサポート [使用する]. The right column is labeled '項目ヘルプ' and contains instructions: '現在の時刻を、時:分:秒で設定します。(24時間制)', '<Tab> キー、<Enter> キーで右の項目に移動します。', and '<Shift-Tab> キーで左の項目に移動します。'. At the bottom, there is a key list: F1 ヘルプ, Esc 終了, / 項目選択, -/メニュー選択, /Space 値の変更, Enter サブメニュー選択, F9 標準設定, F10 保存して終了. Callouts 1-4 point to the menu bar, help window, settings field, and key list respectively.

1 メニューバー
メニュー名が表示されます。

2 項目ヘルプ
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

3 設定フィールド
選択しているメニューの設定項目と、現在の設定値が表示されます。

4 キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。

(機種により表示が異なる場合があります)

6.2.3 BIOSセットアップメニュー

BIOSの各種設定を行います。

本製品のBIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー一覧』をご覧ください。

6.2.4 BIOSセットアップを終了する

■ 変更を保存して終了する

1 「終了」メニューを選択します。

サブメニューが表示されている場合は、メニューバーに「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを数回押してから、「終了」メニューを選択してください。

2 次のいずれかの項目を選択し、【Enter】キーを押します。

- ・「変更を保存して終了する」
- ・「変更を保存して電源を切る」

確認メッセージが表示されます。

3 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

BIOSセットアップが終了します。

「変更を保存して終了する」を選択した場合はWindowsが起動します。

「変更を保存して電源を切る」を選択した場合は本製品の電源が切れます。

■ 変更を保存せずに終了する

1 「終了」メニューを選択します。

サブメニューが表示されている場合は、メニューバーに「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを数回押してから、「終了」メニューを選択してください。

2 「変更を保存せずに終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。

確認メッセージが表示されます。

 **POINT**

- ▶ 何も変更していない場合は、メッセージは表示されずにBIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

3 「いいえ」を選択し、【Enter】キーを押します。

BIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

 **重要**

- ▶ 「はい」を選択すると、変更が保存されてしまいます。必ず「いいえ」を選択してください。

6.2.5 起動メニューを使用する

起動するデバイスを選択して本製品を起動します。「リカバリ起動ディスク」から本製品を起動する場合などに使用します。

起動メニューを使用するには、本製品の電源を完全に切った状態から行ってください。

重要

- ▶ BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。その場合は、「使用する」に設定し直してください。

1 本製品の電源を完全に切ります。

電源の切り方は、「3.5.2 電源を切る」(→P.49)をご覧ください。

2 【F12】 キーを押したまま、本製品の電源を入れます。

3 ビープ音が鳴ったら、【F12】 キーを離します。

起動メニューが表示されます。

パスワード入力画面が表示された場合はパスワードを入力(→P.82)してください。

POINT

- ▶ Windowsが起動してしまった場合は、本製品の電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「3.5.2 電源を切る」(→P.49)をご覧ください。
- ▶ 【Tab】 キーを押して、「起動メニュー」と「アプリケーションメニュー」の表示を切り替えることができます。

4 カーソルキーで起動するデバイスを選択し、【Enter】 キーを押します。

選択したデバイスから本製品が起動します。

POINT

- ▶ 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブにディスクをセットしてから操作してください。
- ▶ 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから【Enter】 キーを押してください。光学ドライブのデータの読み出し中に【Enter】 キーを押すと、光学ドライブから正常に起動できない場合があります。
- ▶ 起動メニューを終了して通常の方法で起動する場合は、【Esc】 キーを押してください。

6.3 設定事例集

ここでは、よく使われる設定について、その設定方法を記載しています。
お使いの状況にあわせてご覧ください。

- BIOSのパスワード機能を使う (→P.80)
- 起動デバイスを変更する (→P.83)
- セキュリティチップの設定を変更する (→P.84)
- セキュアブートの設定を変更する (→P.85)
- Wake on LANを有効にする (→P.85)
- Wake on RTCを有効にする (→P.86)
- イベントログを確認する (→P.86)
- イベントログを消去する (→P.87)
- ご購入時の設定に戻す (→P.87)

6.3.1 BIOSのパスワード機能を使う

■ パスワードの種類

本製品で設定できるパスワードは次のとおりです。

管理者用パスワード

システム管理者用のパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

ユーザー用パスワード

一般利用者用のパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。
ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合は、設定変更のできる項目が制限されます。制限された設定項目はグレー表示になり、変更できません。

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。

ハードディスクパスワード

本製品の内蔵フラッシュメモリを、他のユーザーが使用したり、他のコンピューターで使用したりできないようにするためのパスワードです。

■ パスワードを設定／変更／削除する

重要

- ▶ ハードディスクパスワードを設定する場合は、電源オフ状態から作業を開始してください。本製品を再起動してBIOSセットアップを起動した場合、ハードディスクパスワードを設定することはできません。
- ▶ 「管理者用パスワード」を変更するには、BIOSセットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。
- ▶ 「ユーザー用パスワード」を設定するには、「管理者用パスワード」が設定されている必要があります。

1 ハードディスクパスワードを設定する場合は、次の操作を行います。

1. 本製品の電源が入っている場合は、電源を切ります (→P.49)。
2. BIOSセットアップを起動します (→P.77)。

2 「セキュリティ」メニューで次の項目を選択し、【Enter】キーを押します。

●管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する場合

- ・「管理者用パスワード設定」
- ・「ユーザー用パスワード設定」

●ハードディスクパスワードを設定する場合

- ・「ハードディスクセキュリティ」の「ドライブn」の「マスターパスワード設定」
- ・「ハードディスクセキュリティ」の「ドライブn」の「ユーザーパスワード設定」

POINT

- ▶ ハードディスクの「マスターパスワード」を設定するためには、ハードディスクの「ユーザーパスワード」が設定されている必要があります。

3 すでにパスワードが設定されている場合は、現在のパスワードを入力します。

「新しいパスワードを入力してください」にカーソルが移ります。

4 新しいパスワード (1～32桁) を入力します。

パスワードを削除する場合は、何も入力せずに【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認してください」にカーソルが移ります。

POINT

- ▶ パスワードには、アルファベットと数字、記号および半角スペースを使用できます。大文字、小文字は区別されます。記号を入力する場合は、次の表をご覧ください。(表にない記号は使用できません。)
- ・キーボードの刻印どおりに入力します。

入力する記号	-	;	,	.	/
--------	---	---	---	---	---

- ・【Shift】キーを押しながら対応するキーを押します。

入力したい記号	!	#	\$	%	<	>	?
対応するキー	1	3	4	5	,	.	/

- ▶ 入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。
- ▶ 数字だけでなく英字を入れるなど、第三者に推測されないように工夫してください。
- ▶ BIOSセットアップを「ユーザー用パスワード」で起動した場合、「ユーザー用パスワード」を削除できるのは「ユーザー用パスワード文字数」の設定が0のときだけです。0以外のときは、「パスワード文字数不足」のメッセージが表示されます。
- ▶ 本製品の修理が必要な場合は、必ずパスワードを解除してください。パスワードがかかった状態では、保証期間にかかわらず、修理は有償となります。

5 手順4で入力したパスワードをもう一度入力します。

「変更が保存されました。」と表示され、パスワードが変更されます。

POINT

- ▶ 再入力したパスワードが間違っていた場合は、警告メッセージが表示されます。
【Enter】キーを押してウィンドウを消去し、手順4からやり直してください。

6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.78)

■ パスワードを使用する

設定したパスワードは、BIOSセットアップの設定により、次の場合に入力が必要になります。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、エラーメッセージが表示されます。(警告音が鳴り、キーボードやマウスが一切反応しなくなります。) この場合は、電源ボタンを4秒以上押して本製品の電源を切ってください。電源が切れた後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

● 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード

- ・ BIOSセットアップを起動するとき
- ・ 本製品を起動するとき

次の入力画面が表示されたら、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力してください。

パスワードを入力して下さい。 []

● ハードディスクパスワード

- ・ 本製品を起動するとき

次の入力画面が表示されたら、対応するドライブのハードディスクパスワードを入力してください。

ドライブnのハードディスクはロックされています。

パスワードを入力して下さい。 []

POINT

- ▶ ハードディスク用マスターパスワードでは、本製品を起動することはできません。

■ パスワードを忘れてしまったら

重要

- ▶ ハードディスクパスワードは、盗難などによる不正使用を防止することを目的とした強固なセキュリティです。ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、修理をしても内蔵フラッシュメモリ内のデータやプログラムは復元できず、消失してしまいます。パスワードの管理には充分ご注意ください。

□ 対処が可能な場合

- ユーザー用パスワードを忘れてしまった
管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。
- ハードディスク用ユーザーパスワードを忘れてしまった
ハードディスク用マスターパスワードが設定されている場合のみ、マスターパスワードを削除するとユーザーパスワードも削除されます。
マスターパスワードを設定していなかった場合は、修理が必要です。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

□ 対処が不可能な場合

次の場合は、修理が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

- 管理者用パスワードを忘れてしまった
- ハードディスク用マスターパスワードを忘れてしまった

6.3.2 起動デバイスを変更する

本製品の起動時にOSを読み込むデバイスの順序は、「起動」メニューの「起動デバイスの優先順位」で設定します。

「起動デバイスの優先順位」に設定されている順にOSを検索します。

変更したデバイスの順序は、再起動後に反映されます。

- 1 「起動」メニューを選択します。
- 2 カーソルキーで優先順位を変更したいデバイスを選択します。

重要

- ▶ カスタムメイドの「LAN追加」を選択した場合、「NETWORK」配下の優先順位は変更できません。

- 3 次のキーを使用して、優先順位を変更します。
 - ・【+】キー：選択したデバイスを1つ上に移動します。
 - ・【-】キー：選択したデバイスを1つ下に移動します。
 - ・【Shift】+【1】キー：選択したデバイスを有効または無効に設定します。
- 4 「起動デバイスの優先順位」が希望する順番になるまで、手順2～3を繰り返します。
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.78)

6.3.3 セキュリティチップの設定を変更する

■ セキュリティチップを有効／無効にする

- 1 「セキュリティ」メニューを選択します。
- 2 「TPM (セキュリティチップ) 設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「セキュリティチップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「使用する」または「使用しない」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

POINT

- ▶ セキュリティチップのクリアは、再起動後に反映されます。

■ セキュリティチップをクリアする

重要

- ▶ セキュリティチップをクリアすると、セキュリティチップで保護されたデータなどは利用できなくなります。セキュリティチップをクリアする前に保護を解除してください。

- 1 「セキュリティ」メニューを選択します。
- 2 「TPM (セキュリティチップ) 設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「セキュリティチップのクリア」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認画面が表示されます。
- 4 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.78)

POINT

- ▶ セキュリティチップのクリアは、再起動後に反映されます。

■ アプリからの変更を反映する

Windows上のアプリを使ってセキュリティチップの状態を変更する場合、本製品の再起動後に、変更が有効になっていることがあります。

再起動を要求するメッセージが表示されたら、次の手順に従って操作してください。

- 1 本製品の電源を入れるまたは再起動します。
起動時の自己診断が実行された後、TPM設定変更の確認画面が表示されます。
- 2 【Y】キーを押します。
セキュリティチップの状態が変更されます。

6.3.4 セキュアブートの設定を変更する

- 1 「セキュリティ」メニューを選択します。
- 2 「セキュアブート設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「セキュアブート機能」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「使用する」または「使用しない」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.78)

6.3.5 Wake on LANを有効にする

Wake on LAN (WoL機能) は、他のコンピューターから有線LAN経由で本製品を起動・レジュームする機能です。

本製品が次の状態のときに、起動・レジュームすることができます。

- 電源オフ状態から起動する
- 省電力状態からレジュームする

ここでは、電源オフ状態から起動する設定について説明します。

省電力状態からのレジュームについては、「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」(→P.48)をご覧ください。

重要

- ▶ 電源を切る方法については、「3.5.2 電源を切る」(→P.49)をご覧ください。

■ BIOSセットアップメニューでの設定

- 1 「電源管理」メニューを選択します。
- 2 「LANによるウェイクアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.78)
Windowsが起動します。続けて「■ Windowsでの設定」(→P.86)を行ってください。

■ Windowsでの設定

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.8）を表示します。
- 2 「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプション」が表示されます。
- 3 ウィンドウ左の「電源ボタンの動作を選択する」をクリックします。
- 4 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
- 5 「シャットダウン設定」の「高速スタートアップを有効にする（推奨）」のチェックを外します。
- 6 「変更の保存」をクリックします。

6.3.6 Wake on RTCを有効にする

Wake on RTC機能とは、電源オフ状態から指定の時刻に本製品を起動する機能です。

- 1 「電源管理」メニューを選択します。
- 2 「時刻による電源ON」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 次の設定をそれぞれ選択し、【Enter】キーを押します。
 - ・時刻
 - ・日付
- 5 指定をそれぞれ入力し、【Enter】キーを押します。
- 6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.78）

6.3.7 イベントログを確認する

- 1 「詳細」メニューを選択します。
- 2 「イベントログ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「イベントログの表示」を選択し、【Enter】キーを押します。
記録されているイベントログが表示されます。

イベントログに記録されるメッセージについては、「8.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.111）の「■BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。

6.3.8 イベントログを消去する

- 1 「詳細」メニューを選択します。
- 2 「イベントログ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「イベントログの消去」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「次回起動時に消去します」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.78)

6.3.9 ご購入時の設定に戻す

- 1 「終了」メニューを選択します。
- 2 「標準設定値を読み込む」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。
- 3 「はい」を選択して【Enter】キーを押します。
一部を除くすべての設定が、ご購入時の設定値に戻ります。
変更されない項目については、『BIOSセットアップメニュー一覧』の「終了」メニュー―「標準設定値を読み込む」備考欄「次の項目は対象外」をご覧ください。
- 4 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」(→P.78)

7

第7章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

7.1 日常のお手入れ	89
7.2 定期的なお手入れ	90

7.1 日常のお手入れ

製品本体や周辺機器を長時間使用していると、汚れが付いたり、ほこりがたまったりします。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

7.1.1 製品本体、キーボード、マウスの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

重要

- ▶ 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは使わないでください。損傷する原因となります。

■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

重要

- ▶ ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- ▶ 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- ▶ 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。

7.2 定期的なお手入れ

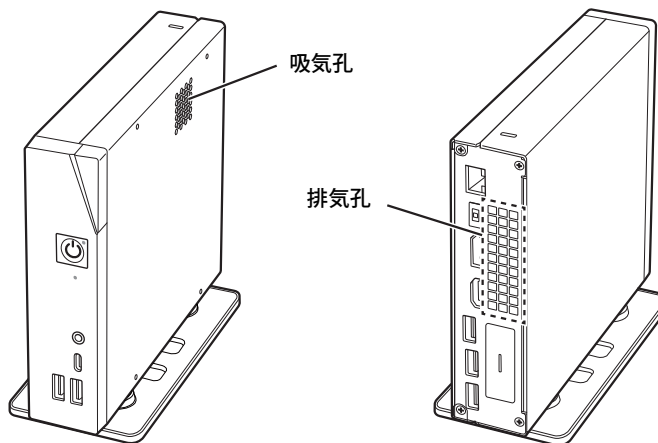
長期間製品を使用していると、通風路や製品内部にほこりがたまります。ほこりがたまった状態で使用し続けると、故障の原因となりますので、定期的にお手入れをしてください。

7.2.1 注意事項

- お手入れをする場合は、製品本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようにしてください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。
電源の切り方については、「3.5.2 電源を切る」(→P.49)をご覧ください。
- 清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、十分に換気してください。
- 洗剤を使用しないでください。故障の原因となります。
- 清掃時に破損した場合は、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分にご注意ください。

7.2.2 製品本体外部のほこりを取る

製品本体の通風孔（吸気や排気）などの開孔部にほこりがたまると、故障の原因となります。通風孔などに付着したほこりは、掃除機で吸い取ってください。



8

第8章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

8.1	トラブル発生時の基本操作	92
8.2	よくあるトラブルと解決方法	96
8.3	それでも解決できないときは	115

8.1 トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

8.1.1 状況を確認する

トラブルが発生したときは、直前に行った操作や現在の製品の状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたら控えておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモ帳などに控えておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■ 製品や周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず製品や周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？また緩んだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありますか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありますか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源はすべて入っていますか？
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上にものを載せていませんか？
キーが押され、製品が正常に動作しないことがあります。
- サーバー側の設定に問題はありますか？
仮想環境のみで不具合が発生する場合は、サーバー側の設定を確認する必要があります。

この他、「8.2.2 起動・終了時のトラブル」(→P.97)の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

8.1.2 以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやアプリのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- アプリをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。

発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

8.1.3 トラブルシューティングで調べる

「8.2 よくあるトラブルと解決方法」(→P.96)は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

8.1.4 インターネットで調べる

「よくあるQA一覧」のページ (<https://www.fmworld.net/biz/fmv/support/qalist/index.html>) では、本製品で発生したトラブルの解決方法を提供しています。

また、「サポート」のページ (https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) では、本製品に関連したサポート情報や更新されたドライバーを提供しております。

注意事項や補足情報も公開していますので、解決方法がないかご覧ください。

8.1.5 診断プログラムを使用する

診断プログラムを使用して、ハードウェアに障害が発生していないか診断してください。

まずBIOSの起動メニューにある診断プログラムで簡単に診断し、異常が発見されなければ続けて「富士通ハードウェア診断ツール」でデバイスを選んで詳しく診断します。

診断後にエラーコードが表示された場合は控えておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。

診断時間は5～10分程度ですが、診断する内容や製品の環境によっては長時間かかる場合があります。

診断プログラムを使用するには、本製品の電源を完全に切った状態から行ってください。

重要

- ▶ 電源の切り方は、「3.5.2 電源を切る」(→P.49) をご覧ください。
- ▶ BIOSの設定をご購入時の状態に戻してください。
診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOSをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「6.3.9 ご購入時の設定に戻す」(→P.87) をご覧ください。
- ▶ 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
USBメモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。
- ▶ 無線LAN搭載機種の場合、診断プログラムは、Bluetoothワイヤレステクノロジーで、キーボード/マウスを接続することができません。USBのキーボード、マウスを用意してください。

■ アプリケーションメニューを表示する

- 1 本製品の電源を完全に切ります。
電源の切り方は、「3.5.2 電源を切る」(→P.49) をご覧ください。
- 2 【F12】 キーを押したまま、本製品の電源を入れます。
- 3 ビープ音が鳴ったら、【F12】 キーを離します。
起動メニューが表示されます。

POINT

- ▶ BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。その場合は、「使用する」に設定し直してください。
BIOSセットアップについては、「6.2.1 BIOSセットアップを起動する」(→P.77) をご覧ください。
 - ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
 - ▶ 起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本製品の電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「3.5.2 電源を切る」(→P.49) をご覧ください。
- 4 【Tab】 キーを押します。
アプリケーションメニューが表示されます。
「■ 診断プログラムを実行する」(→P.94) へ進んでください。

■ 診断プログラムを実行する

続けて、診断プログラムを実行します。

- 1 カーソルキーで「診断プログラム」を選択し、【Enter】 キーを押します。
「診断プログラムを実行しますか？」と表示されます。
- 2 【Y】 キーを押します。
ハードウェア診断が始まります。
ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的に製品が再起動する場合があります。
- 3 次の操作を行います。
 - トラブルが検出されなかった場合
【Enter】 キーを押してください。続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順4へ進んでください。
 - トラブルが検出された場合
手順4以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、【Y】 キーを押して製品の電源を切ってください。
電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを押して電源を切ってください。
- 4 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックします。

5 「診断」タブをクリックします。

診断したいアイコンにチェックが付いていることを確認します。

重要

- ▶ 内蔵フラッシュメモリを診断する場合は、次の操作を行ってください。
 1. 「ハードディスク」のアイコンを右クリックします。
 2. 表示された画面で、「ディスク0」にチェックが付いていることを確認します。
 3. 「OK」をクリックします。

6 「実行」をクリックします。

ハードウェア診断が始まります。

POINT

- ▶ 「[ハードウェア名]に[媒体]をセットしてください」などと表示された場合、「リカバリ起動ディスク」などのディスクをセットしてください。音楽CDなどでは診断できない場合があります。診断を取りやめる場合は、「スキップ」をクリックしてください。

7 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には控えておき、お問い合わせのときにお伝えください。

8 「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

9 「終了」をクリックします。

「終了」ウィンドウが表示されます。

10 「はい」をクリックします。

電源が切れ、診断プログラムが終了します。

8.1.6 サポートの窓口相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「8.3 それでも解決できないときは」(→P.115) をご覧になりサポートの窓口相談してください。

8.2 よくあるトラブルと解決方法

8.2.1 トラブル一覧

■ 起動・終了時のトラブル

- 「電源が入らない」 (→P.97)
- 「メッセージが表示された」 (→P.98)
- 「画面に何も表示されない」 (→P.98)
- 「起動時にチェックディスクが毎回行われる」 (→P.99)
- 「Windowsが起動しない」 (→P.99)
- 「Windowsが動かなくなってしまう、電源が切れない」 (→P.100)
- 「シャットダウンに時間がかかるなど、本製品の動作が不安定になる」 (→P.100)

■ Windows・アプリ関連のトラブル

- 「Windowsにサインインできない」 (→P.100)
- 「アプリが動かなくなってしまった」 (→P.100)
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる」 (→P.101)
- 「「このms-*****を開くには新しいアプリが必要です」というメッセージが表示される」 (→P.101)
- 「Windows Updateが完了しない」 (→P.101)
- 「UWFの保護が有効な状態でWindows Defenderを使用するには」 (→P.102)
- 「休止が使用できない」 (→P.103)
- 「仮想メモリが使用できない」 (→P.103)
- 「回復が正常に行えない」 (→P.103)
- 「UWF Servicingが使用できない」 (→P.103)
- 「スクリーンセーバーにUwfServicingScr.scrを設定すると、キー入力やマウス操作で復帰しない」 (→P.103)
- 「デバイスドライバをインストールするメッセージが表示される」 (→P.104)

■ ハードウェア関連のトラブル

□ BIOS

- 「BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった」 (→P.104)

□ LAN

- 「ネットワークに接続できない」 (→P.104)
- 「通信速度が遅い」 (→P.105)
- 「無線LANの使用中に接続が切断されたり不安定になったりする」 (→P.105)

□ Bluetoothワイヤレステクノロジー

- 「Bluetoothのキーボードやマウスの接続が切れやすい／Bluetooth機器との接続が安定しない」 (→P.106)
- 「Bluetoothのキーボードやマウスが使用できない」 (→P.106)

□ デバイス

- 「機器が使用できない」 (→P.107)

□ ディスプレイ

- 「画面に何も表示されない」 (→P.107)
- 「表示が乱れる」 (→P.107)

□ サウンド

- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」 (→P.108)
- 「マイクからうまく録音ができない」 (→P.108)

□ キーボード

- 「キーボードが動作しない」 (→P.108)

□ ポインティングデバイス

- 「マウスポインターが動かない、正しく動作しない」 (→P.109)

□ USB

- 「USB デバイスが使えない」 (→P.109)
- 「USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される」 (→P.110)

□ その他

- 「「ジー」「キーン」という音がする」 (→P.110)

8.2.2 起動・終了時のトラブル



電源が入らない

- 電源ケーブルは接続されていますか？
- 電源スイッチのあるOAタップをお使いの場合、OAタップの電源は入っていますか？
- 電源ボタンを4秒以上押して完全に電源が切れた状態にし、電源ケーブルを抜いてください。30秒以上待つてから再度電源ケーブルを接続し、電源を入れてください。
- キーボードの2つのキーを押しても電源が入らない場合は、BIOSセットアップの設定が異なっている可能性があります。
「2.4 キーボード」 (→P.29) に記載している「■ 2つのキーを押して電源を入れる」をご覧ください。正しく設定してください。



メッセージが表示された

- 電源を入れた後の自己診断 (POST) 時に、画面にメッセージが表示される場合があります。「8.2.5 エラーメッセージ一覧」(→P.111) の「■ 起動時に表示されるエラーメッセージ」で該当するメッセージを確認し、記載されている処置に従ってください。
一部のメッセージはBIOSイベントログに記録され、BIOSセットアップから確認できます。「8.2.5 エラーメッセージ一覧」(→P.111) の「■ BIOSイベントログ」をご覧ください。
- 本製品にセキュアブートのセキュリティ機能のバイパスの脆弱性対応^(※)を行った場合、脆弱なWindowsブートマネージャーの起動ができません。
(※) 脆弱性対応について詳しくは、ご購入時に添付の『CVE-2023-24932の脆弱性対応について』をご覧ください。

上記の処置をしてもまだエラーメッセージが発生する場合は、本製品が故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。



画面に何も表示されない

- 電源ランプが点灯していますか？
電源ボタンを押して動作状態にしてください。それでも、画面が表示されない場合は「電源が入らない」(→P.97) をご覧ください。
- ディスプレイに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ ディスプレイケーブルのコネクタのピンが破損していませんか？
 - ・ ディスプレイのブライトネス/コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
 - ・ デジタルディスプレイや複数台のディスプレイを接続している場合、製品本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？
必ず製品本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。
製品本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。
そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
- 2台目のディスプレイを使用している場合、次の項目を確認してください。
 - ・ 2台目のディスプレイ出力に設定されていませんか？
2台目のディスプレイだけに表示する設定になっていると、1台目のディスプレイには表示されません。
1台目のディスプレイ表示に設定を切り替えてください。
 - ・ 解像度やリフレッシュレートは、2台目のディスプレイにあった設定になっていますか？
そのまま15秒程度待っても1台目のディスプレイが表示されない場合は、本製品を強制終了してください。その後、2台目のディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、1台目のディスプレイに表示されます。
お使いになる2台目のディスプレイに合わせた設定値に変更した後、2台目のディスプレイの表示に切り替えてください。
 - ・ ディスプレイの設定については、「3.3 マルチディスプレイ機能」(→P.34) をご覧ください。



起動時にチェックディスクが毎回行われる

- 書込保護機能 (Unified Write Filter) により前回のチェック結果が反映されず、繰り返しチェックディスクが実行されています。
「1.4.2 書込保護機能の設定／解除」(→P.16) をご覧になり、書込保護機能を「無効」に設定してから、チェックディスクを行ってください。チェックディスクの結果、エラーが確認されなければ書込保護機能を「有効」に設定し、そのままお使いいただけます。
 - ・エラーが確認された場合
チェックディスクでエラーの修復を試みてください。エラー修復後は、書込保護機能を「有効」に設定し、そのままお使いいただけます。
 - ・エラーが修復されなかった場合
リカバリを実行してください。リカバリを実行してもエラーが解消されなければ、内蔵フラッシュメモリの故障が考えられますので、診断プログラムでハードウェアに障害が発生していないか確認してください。



Windowsが起動しない

- Windows 起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された場合は、Windowsが起動するまでそのままお待ちください。
Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windowsの修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。
- 次の認証デバイス^(※1)のドライバーをアンインストールしましたか？
 - ・手のひら静脈センサー
 - ・指紋センサー
 - ・Webカメラ^(※2)

認証デバイスを使用してWindowsにサインインしている場合、その認証デバイスのドライバーをアンインストールするとWindowsが正常に起動できなくなります。

認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「AuthConductor Client Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。^(※3)

Windowsが正常に起動できなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。

※1 認証デバイスを使用するには、それぞれの外付けデバイスの購入が必要となります。

※2 お使いになるには、別売の「AuthConductor Client 顔認証オプションV2」が必要となります。

※3 アンインストール方法については、認証デバイスドライバーは「Readme.txt」などの説明ファイルを、「AuthConductor Client Basic」はAuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

Q Windowsが動かなくなってしまう、電源が切れない

- 次の手順でWindowsを終了させてください。
 1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押し、画面右下の「シャットダウン」アイコンをクリックします。

この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを4秒以上押し、電源を切り、30秒以上待ってから電源を入れてください。

👉 重要

- ▶ ディスクアクセスランプが点灯中に電源を切ると、内蔵フラッシュメモリが壊れる可能性があります。
- ▶ 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、内蔵フラッシュメモリのチェックをお勧めします。

Q シャットダウンに時間がかかるなど、本製品の動作が不安定になる

- 本製品でシンクライアントを運用するときは、事前検証を十分に行ったうえで、必要に応じてオーバーレイキャッシュの最大容量を調整してください。
オーバーレイキャッシュの最大容量の設定変更方法については、「1.4.3 内蔵フラッシュメモリへの書き込み制御」 — 「■ オーバーレイ内容を変更する」 (→P.21) をご覧ください。

8.2.3 Windows・アプリ関連のトラブル

ここでは、Windows、アプリに関連するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。

Q Windowsにサインインできない

- 認証デバイスを忘れてたり、紛失したり、破損したりして、Windowsにサインインできないときは、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

Q アプリが動かなくなりました

- 「タスクマネージャー」から、動かなくなったアプリを強制終了してください。

🔍 POINT

- ▶ アプリを強制終了した場合、アプリでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ アプリを強制終了した場合は、内蔵フラッシュメモリのチェックをお勧めします。



頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

- 次の項目を確認してください。
 - ・ Cドライブの空き容量が充分か確認する
Windowsのシステムファイルが格納されているCドライブの空き容量が少ないと、Windowsの動作が不安定になることがあります。Cドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。空き容量を増やすには次の方法があります。
 - ・ ごみ箱を空にする
 - ・ 不要なファイルやアプリを削除する
 - ・ ディスクのクリーンアップを行う
 - ・ 内蔵フラッシュメモリのエラーチェックを行う

それでもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『取扱説明書』をご覧ください。



「このms-*****を開くには新しいアプリが必要です」というメッセージが表示される

- Windows 11 IoT Enterprise LTSC 2024の仕様です。
Windows 11 IoT Enterprise LTSC 2024では、本メッセージに対応するアプリを搭載していません。



Windows Updateが完了しない

- UWFの保護が有効になっていませんか？
Windows Updateを実行するときは、UWFの保護を解除して行ってください。
UWFの保護が有効な状態でWindows Updateを実行すると、UWFのオーバーレイキャッシュを消費して動作が不安定になります。
また、UWFのオーバーレイキャッシュへの書き込みは内蔵フラッシュメモリに保存されないため、Windows Updateは完了しません。
- Windows Updateが完了していない状態でUWFの保護を有効にしていますか？
必ずWindows Updateが完了している事を確認してから、UWFの保護を「有効」に設定してください。
Windows Updateの途中でUWFの保護を有効に設定すると、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが行われず、Windows Updateの処理が繰り返し行われます。



UWFの保護が有効な状態でWindows Defenderを使用するには

- 本製品の再起動後にもWindows Defenderの変更を保持できるようにするために、必要なファイルやレジストリの除外をUWFに追加する必要があります。
次の手順で、ファイルやレジストリの除外設定をしてください。
設定の変更は、UWFの保護を無効にして行ってください。

1 「1.4.3 内蔵フラッシュメモリへの書き込み制御」(→P.17) をご覧になり、次のファイルとレジストリを除外ファイルに追加してください。

- ・ファイルの除外

```
C:\Program Files\Windows Defender
C:\ProgramData\Microsoft\Windows Defender
C:\Windows\WindowsUpdate.log
C:\Windows\Temp\MpCmdRun.log
```

- ・レジストリの除外

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows Defender
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdBoot
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdFilter
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdNisSvc
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdNisDrv
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WinDefend
```

POINT

- ▶ 次のサイトも併せてご覧ください。(URLと内容は変更されることがあります)
 - ・ UWFで保護されたデバイスでのマルウェア対策サポート
<https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows-hardware/customize/enterprise/uwf-antimalware-support>

2 Windowsが起動しない問題を回避するため、続けて設定を行います。

1. 次のパスを除外レジストリから削除します。

除外レジストリの削除は、「レジストリの書き込みを制御する」(→P.19) をご覧ください。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdFilter
```

2. 次のパスをメモ帳にコピーし、拡張子「.bat」で保存してバッチファイルを作成します。

```
ufmgr.exe registry commit "HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdFilter" DependOnService
ufmgr.exe registry commit "HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdFilter" Description
ufmgr.exe registry commit "HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdFilter" DisplayName
ufmgr.exe registry commit "HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdFilter" ErrorControl
ufmgr.exe registry commit "HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdFilter" Group
ufmgr.exe registry commit "HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdFilter" ImagePath
ufmgr.exe registry commit "HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdFilter" Start
ufmgr.exe registry commit "HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdFilter" SupportedFeatures
ufmgr.exe registry commit "HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdFilter" Type
ufmgr.exe registry commit "HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdFilter\Instances" DefaultInstance
ufmgr.exe registry commit "HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdFilter\Instances\WdFilter Instance" Altitude
ufmgr.exe registry commit "HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdFilter\Instances\WdFilter Instance" Flags
ufmgr.exe registry commit "HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WdFilter\Security" Security
```

3. ローカル グループ ポリシー エディターで、作成したバッチファイルをシャットダウン スクリプトに追加します。
 - (1) 「スタート」 ボタンを右クリックして「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
 - (2) 「gpedit.msc」と入力し、「OK」をクリックします。
「ローカル グループ ポリシー エディター」が表示されます。
 - (3) 画面左側で「コンピューターの構成」－「Windowsの設定」の順にクリックします。
 - (4) 画面右側で「スクリプト (スタートアップ/シャットダウン)」をダブルクリックします。
 - (5) 「シャットダウン」をダブルクリックします。
「シャットダウンのプロパティ」が表示されます。
 - (6) 「追加」をクリックし、手順2で作成したバッチファイルを選択し、「OK」をクリックします。
 - (7) 「シャットダウンのプロパティ」で「OK」をクリックし、すべてウィンドウを閉じます。
 - (8) 本製品を再起動します。

POINT

- ▶ 次のサイトも併せてご覧ください。(URLと内容は変更されることがあります)
 - UWFをMicrosoft Defenderから除外した後にWindowsが起動しない
<https://learn.microsoft.com/ja-jp/troubleshoot/windows-client/performance/windows-hangs-on-startup-after-excluding-uwf-from-microsoft-defender>



休止が使用できない

- UWFの仕様により休止は非対応となります。



仮想メモリが使用できない

- UWFの仕様により仮想メモリは非対応となります。



回復が正常に行えない

- 本製品は回復は非対応となります。
OSをご購入時の状態に戻す場合は、リカバリを行ってください。



UWF Servicingが使用できない

- UWF Servicingの機能は動作保証外になります。



スクリーンセーバーにUwfServicingScr.scrを設定すると、キー入力やマウス操作で復帰しない

- 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Del】 キーを押し、「キャンセル」をクリックしてください。
UwfServicingScr.scrは、UWF servicing専用のスクリーンセーバーのため通常の使用ではお使いいただけません。



デバイスドライバーをインストールするメッセージが表示される

- UWFの保護を解除して、メッセージがでるドライバーをインストールしてください。インストール後は、UWFの保護を有効に戻してください。

8.2.4 ハードウェア関連のトラブル

■ BIOS



BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった

- 管理者用パスワードを忘れると、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。ハードディスクパスワードを忘れると、内蔵フラッシュメモリが使えなくなったり、内蔵フラッシュメモリのセキュリティ機能を解除できなくなったりします。いずれの場合も修理が必要となります。ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。詳しくは、「**■** パスワードを忘れてしまったら」(→P.83)をご覧ください。

■ LAN



ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
- ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・使用するネットワーク環境に合ったケーブルを使っていますか？
- ネットワークブートやWake on LAN機能が動作しない場合は、次の操作を行ってください。
 1. 本製品の電源を切り、電源ケーブルを抜きます。
 2. ネットワーク機器の電源が入っていることを確認し、LANケーブルを本製品へ接続します。
 3. 電源ケーブルを接続し、製品本体の電源を入れます。
- 「機内モード」が「オフ」、「ワイヤレスデバイス」が「オン」に設定されていますか？「機内モード」が「オン」、または「ワイヤレスデバイス」が「オフ」に設定されていると、電波が発信されません。設定方法については、『無線LANご利用ガイド』をご覧ください。

ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。



通信速度が遅い

- ネットワーク機器の電源を入れてから本製品の電源を入れてください。また、本製品の使用中にLANケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。
ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度が極端に低下したりする場合があります。
例：1Gbpsで通信していたのに10Mbpsの速度になる
ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、およびLANケーブルで本製品とネットワーク機器が接続されていることを確認後、製品本体を再起動してください。
- 節電機能が働いていませんか？
節電機能に対応したLANデバイスを搭載している機種の場合、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れると、通信速度が下がります。
これにより問題がある場合は、「3.6.1 有線LAN」(→P.51) をご覧になり、この機能を無効に設定してください。



無線LANの使用中に接続が切断されたり不安定になったりする


対象 無線LAN搭載機種

- 製品本体の設置場所によってはローミング^(※) がうまく行われず、通信が切断されたり不安定になったりすることがあります。

(※) 同じ設定をもった複数のアクセスポイント間の接続を切り替える仕組み。

複数の無線LANアクセスポイントを同じSSID設定で使用している場合、製品の設置場所によってはローミングが頻繁に行われ接続が不安定になることがあります。

この場合は、次の手順でローミングの設定を変更し、頻度を調整してください。

1. 「スタート」ボタン →  (設定) → 「システム」の順にクリックします。
2. 「バージョン情報」をクリックします。
3. 「デバイス マネージャー」をクリックします。
「デバイス マネージャー」が表示されます。
4. 「ネットワーク アダプター」をダブルクリックして、お使いの無線LANデバイスをダブルクリックします。
デバイス名については、「9.4 無線LAN」(→P.124) をご覧になり、確認してください。
5. 「詳細設定」タブをクリックし、次のプロパティ内の設定を変更します。


プロパティ名	ローミングの積極性	
値 (選択)	最低	ローミングしにくく、現在のアクセスポイントとの接続を維持しようとする
	中	ご購入時の設定
	最高	ローミングしやすく、アクセスポイントの切り替えが発生しやすい

6. 「OK」をクリックします。

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジー（無線LAN搭載機種）




Bluetoothのキーボードやマウスの接続が切れやすい／Bluetooth機器との接続が安定しない

- 次の手順で設定を変更してください。
 1. 「スタート」ボタン→ （設定）→ 「システム」の順にクリックします。
 2. 「バージョン情報」をクリックします。
 3. 「デバイス マネージャー」をクリックします。
「デバイスマネージャー」が表示されます。
 4. 「Bluetooth」をダブルクリックし、「インテル(R) ワイヤレス Bluetooth(R)」をダブルクリックします。
 5. 「電源の管理」タブをクリックし、「電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」のチェックを外します。
 6. ACアダプタを製品本体から一度取り外し、30秒以上待ってからもう一度ACアダプタを接続します。



Bluetoothデバイスが使用できなくなった

- 「機内モード」の切り替え操作は、充分に間隔をあけて行ってください。
Bluetoothデバイスが使用できなくなった場合は、もう一度「機内モード」を「オン」にし、その後間隔をあけてから「機内モード」を「オフ」にしてください。
- スリープ状態からレジュームした直後に機内モードの操作（設定の切り替え）をすると、Bluetoothの切り替えがうまく動作しないことがあります。しばらく待ってから機内モードの操作を行ってください。
機内モードを「オフ」にしてもBluetoothが使えない場合は、Bluetoothの設定を「オン」にしてください。
 1. 「スタート」ボタン→ （設定）→ 「デバイス」→ 「Bluetoothとデバイス」の順にクリックします。
 2. 「Bluetooth」を「オン」にします。



Bluetoothのキーボードやマウスが使用できない

- 次の場合は、Bluetoothワイヤレステクノロジーで、キーボード／マウスを接続することができません。
 - ・ BIOSセットアップ
 - ・ 起動メニュー
 - ・ 診断プログラム
 - ・ データ消去（ERASE DISKを実行）これらの操作には、USBのキーボード、マウスを用意してください。

■ デバイス

Q 機器が使用できない

- 「Systemwalker Desktop Keeper for Standalone」の「デバイス種別ごとの使用禁止設定」は、有効になっていますか？
次の機器を搭載した機種では、情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、「Systemwalker Desktop Keeper for Standalone」を使用してデバイスの使用を制限している場合があります。
システム管理者に確認してください。
・USB（一部利用可能）
- 仮想環境によっては使用できないデバイスがあります。
仮想環境のサポートにお問い合わせください。

■ ディスプレイ

Q 画面に何も表示されない

- 「8.2.2 起動・終了時のトラブル」(→P.97)の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。
- 省電力状態になっていませんか？
本製品には省電力機能が設定されており、一定時間入力がないと省電力状態に移行します。
詳しくは「3.5 省電力」(→P.47)をご覧ください。
- 仮想環境のみで発生する場合は、仮想環境の設定に問題がある可能性があります。
仮想環境のサポートにお問い合わせください。

Q 表示が乱れる

- 解像度、発色数、リフレッシュレートが正しく設定されていますか？
「3.2.2 解像度を変更する」(→P.33)をご覧ください。
外部ディスプレイの場合は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- アプリを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. アプリを最小化します。
 2. 最小化したアプリを元のサイズに戻します。

POINT

- ▶ 次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
 - ・ Windows起動時および画面の切り替え時
 - ・ DirectXを使用した一部のアプリ使用時
- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものはありませんか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイや製品本体から離して置いてください。
- 仮想環境のみで発生する場合は、仮想環境の設定に問題がある可能性があります。
仮想環境のサポートにお問い合わせください。

■ サウンド

Q スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 外付けスピーカーに関して、次の項目を確認してください。
 - ・製品本体と正しく接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源ボタンは入っていますか？
 - ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
 - ・マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- ミュートや音量などを確認してください。
詳しくは、「3.4 サウンド」（→P.36）をご覧ください。
- 音が割れる場合は、音量を小さくしてください。
- オーディオ端子の機能が正しく設定されていますか？
「3.4.4 オーディオ端子の機能を切り替える」（→P.38）をご覧ください。オーディオ端子の機能を正しく切り替えてください。

Q マイクからうまく録音ができない

- 音量は調節されていますか？
音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、「3.4 サウンド」（→P.36）をご覧ください。
- オーディオ端子の機能が正しく設定されていますか？
「3.4.4 オーディオ端子の機能を切り替える」（→P.38）をご覧ください。オーディオ端子の機能を正しく切り替えてください。
- 仮想環境側の問題もあるので、サーバー側の設定を確認してください。

■ キーボード

Q キーボードが動作しない

- キーボードは正しく接続されていますか？
 - ・電源を切らずにキーボードのUSBコネクタを一度抜き、接続し直してください。
 - ・無線LAN搭載機種でBluetoothのキーボードをお使いの場合は、プロファイルの仕様を確認し、接続し直してください。詳しくは、『Bluetoothワイヤレステクノロジーご利用ガイド』をご覧ください。
また、次の場合は、Bluetoothワイヤレステクノロジーで、キーボードを接続することができません。
 - ・BIOSセットアップ
 - ・起動メニュー
 - ・診断プログラムこれらの操作には、USBキーボードを用意してください。

■ ポインティングデバイス



マウスポインターが動かない、正しく動作しない

- マウスは正しく接続されていますか？
 - ・電源を切らずにマウスのUSBコネクタを一度抜き、接続し直してください。
 - ・無線LAN搭載機種でBluetoothのマウスをお使いの場合は、プロファイルの仕様を確認し、接続し直してください。詳しくは、『Bluetoothワイヤレステクノロジーご利用ガイド』をご覧ください。
 また、次の場合は、Bluetoothワイヤレステクノロジーで、キーボード/マウスを接続することができません。
 - ・BIOSセットアップ
 - ・起動メニュー
 - ・診断プログラム
 これらの操作には、USBマウスを用意してください。
- オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？
 - ・オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。
- 次のようなものの上で操作していませんか？
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの

■ USB



USBデバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
- USBデバイスがUSBハブを経由して接続されていませんか？

USBハブを経由すると問題が発生する場合があります。USBデバイスを本体のUSBコネクタに直接接続してみてください。
- USBデバイスに不具合はありませんか？

USBデバイスに不具合がある場合、Windowsが正常に動作しなくなることがあります。製品を再起動して、USBデバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USBデバイスのご購入元にご連絡ください。
- 「Systemwalker Desktop Keeper for Standalone」の「デバイス種別ごとの使用禁止設定」は、有効になっていますか？（→P.107）
- 対応していないUSBデバイスを接続していませんか？

USBコネクタには、対応した規格のUSBデバイスの接続をお勧めします。お使いの機種のUSBコネクタの仕様については、「9.1 本体仕様」（→P.117）をご覧ください。
- 長いUSBケーブルを使用していませんか？

長いUSBケーブルを使用してUSBデバイスを接続した場合、USBデバイスが正常に動作しないことがあります。この場合は、USB準拠の短いケーブルをお試しください。
- 仮想環境の設定によっては、使用できないUSBデバイスがあります。

仮想環境のサポートにお問い合わせください。



USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「！」が表示される

- デバイスドライバーに問題はありませんか？インストールされていますか？
必要なドライバーをインストールしてください。
- 「Systemwalker Desktop Keeper for Standalone」の「デバイス種別ごとの使用禁止設定」は、有効になっていますか？（→P.107）
- 仮想環境の設定によっては、使用できないUSBデバイスがあります。
仮想環境のサポートにお問い合わせください。

■ その他



「ジー」「キーン」という音がする

- 静かな場所では、「ジー」「キーン」という製品本体内部の電子回路の動作音が聞こえる場合があります。
故障ではありませんので、そのままお使いください。

8.2.5 エラーメッセージ一覧

ここでは、本製品が表示するメッセージと、その対処方法を説明しています。

エラーメッセージ一覧には、お使いの製品に搭載されているハードウェアによっては、表示されないメッセージも含まれています。

本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。

■ 起動時に表示されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で異常が見つかった場合に表示されるメッセージは、次のとおりです。

BIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー一覧』をご覧ください。

メッセージ	解説
記号	
<F1>キーを押す 起動を続行します。 <F2>キーを押す BIOS セットアップを起動します。 <電源ボタン>を押す パソコンを終了します。	起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OSを起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視してOSの起動を開始し、【F2】キーを押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更できます。電源ボタンを押すと製品の電源を切ります。
N	
NVRAMデータが正しくありません。	NVRAMデータのテストでエラーが発見されたことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
P	
PXE-T01:File not found	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E32:TFTP open timeout	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E53:No boot filename received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E61:Media test failure, Check cable	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LANケーブルが正しく接続されていません。LANケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E78:Could not locate boot server	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E89:Could not download boot image	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ	解説
か	
起動可能なデバイスが見つかりませんでした。	OSが見つからなかった場合に表示されます。 BIOSセットアップでドライブが正しく設定されているか確認してください。
キーボードエラーまたはキーボードが接続されていません。	キーボードの接続の確認を有効にしている場合、キーボードの接続を確認できなかった場合に表示されます。 キーボードの接続を確認してください。
さ	
システムは使用できません。	BIOSパスワードに失敗した場合に表示されます。 この場合、電源ボタンを長押しして製品の電源を切ってください。
セキュアブートに失敗しました。 **アクセス拒否**	セキュアブートに対応していないOSから起動しようとしたときに表示されます。
前回の起動中にファンエラーが発生しました。	前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
選択したデバイスから起動できませんでした。	起動メニューで選択された起動デバイスから、起動できなかった場合に表示されます。
は	
ファンエラー。システムの電源が切れます。	冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
ら	
リアルタイムクロックのエラーです。 日付と時刻の設定を確認してください。	リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。 日付と時刻を確認し、電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。

■ BIOS イベントログ

起動時の自己診断（POST）で、一部のエラーはBIOS イベントログに記録されます。

BIOS イベントログは、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「イベントログ設定」の「イベントログの表示」から確認できます。

BIOS セットアップメニューについては、『BIOS セットアップメニュー 一覧』をご覧ください。

BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
B	
BIOSが更新されました (版数 xxxx)	システムBIOSが (版数 xxxx) に更新されました。
E	
ECが更新されました (版数 xxxx)	ECファームウェアが (版数 xxxx) に更新されました。
I	
Intel(R) Management Engineのデータを復旧しました	Intel(R) Management Engineのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
Intel(R) Management Engineを復旧しました	Intel(R) Management Engineファームウェアが破損し、バックアップデータにより復旧しました。なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」まで。
M	
MEが更新されました (版数 xxxx)	Intel(R) Management Engineファームウェアが (版数 xxxx) に更新されました。
P	
POSTエラー：NVRAMを復旧した	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：NVRAMを復旧した (ヘッダー情報)	
POSTエラー：xxxxxxxx xxxxxxxx	Xには数字が表示されます。なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：日付/時刻不正	日付、時刻が正しく設定されていません。「システム時刻」「システム日付」の設定を確認してください。
あ	
イベントログが空です	イベントログに何も記録されていません。
イベントログがクリアされた	イベントログがクリアされました。
か	
起動可能なデバイスが見つかりませんでした	起動可能なデバイスまたはOSのローダーが見つかりませんでした。内蔵ストレージなど起動可能なデバイスが正しく認識されているか、起動可能なデバイス内のデータが壊れていないか、起動可能なデバイスが故障していないか確認してください。
強制終了が実行されました	強制終了が実行されました。
さ	
システムBIOSを復旧しました	システムBIOS破損し、バックアップデータにより復旧しました。なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
システム設定が変更された	システム設定が変更されました。
診断プログラムが異常を検出 (詳細コード=xxxxxxxx)	診断プログラム実行結果でエラーを検出しました。

メッセージ	解説
は	
パスワードが設定/変更された (ドライブ0)	ドライブ0のパスワードが設定または変更されました。
パスワード設定/変更エラー (ドライブ0)	ドライブ0のパスワードの設定または変更に失敗しました。
パスワード入力不正	誤ったパスワードが3回入力されました。
ファンエラーが発生した	ファンエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
ま	
メモリ容量が前回起動時から変更された	メモリ容量が前回起動時から変更されました。

8.3 それでも解決できないときは

8.3.1 お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

9

第9章 仕様

本製品の仕様を記載しています。

9.1	本体仕様	117
9.2	CPU	122
9.3	ディスプレイ	123
9.4	無線LAN	124

9.1 本体仕様


9.1.1 ESPRIMO G6016-TC

ESPRIMO G6016-TC ^{注1}			
対応CPU		インテル® Core™ Ultra 5 プロセッサー 225T	
CPU ^{注2}	動作周波数	Pコア ^{注3}	最大4.90GHz
		Eコア ^{注4}	最大4.40GHz
	コア数		10 (Pコア：6/Eコア：4)
	スレッド数		10
キャッシュメモリ (3次)		20MB	
NPU		Intel® AI Boost	
チップセット		インテル® B860	
システムバス/メモリバス		16GT/s DMI ^{注5} / 5600MHz	
メインメモリ ^{注6}		標準8GB (8GB×1) (DDR5 SO-DIMM) ^{注7} / 最大32GB ^{注8}	
メモリスロット		×2 (空きメモリスロット×1 ^{注9})	
表示機能			
グラフィックスアクセラレータ		Intel® Graphics (CPUに内蔵)	
ビデオメモリ		メインメモリと共用	
解像度/発色数	DisplayPort	最大3840×2160ドット/最大1677万色	
	HDMI	最大4096×2160ドット/最大1677万色	
	DVI-D ^{注10}	最大1920×1200ドット/最大1677万色	
	アナログ ^{注10}	最大1920×1200ドット/最大1677万色	
DirectX		12.1	
OpenGL		4.6	
ストレージ ^{注11} ^{注12}		暗号化機能付256GBフラッシュメモリ (DRAM-less/NVMe) ^{注13}	
オーディオ機能			
オーディオコントローラー		チップセット内蔵+ High Definition Audioコーデック	
PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ (再生時) ^{注14} サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ (録音時) ^{注14} 同時録音再生機能	
MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート	
キーボード		USB日本語キーボード (109Aキー) ^{注15}	
マウス		USBマウス (レーザー) ^{注16}	
通信機能 ^{注17}			
LAN		1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T準拠 ^{注18} 、Wake on LAN対応 ^{注19}	
無線LAN ^{注10}	規格 ^{注20}	IEEE 802.11a/b/g/n/ac/ax準拠 (W52/W53/W56/6L) ^{注21} (Wi-Fi® 準拠 ^{注22}) (Wi-Fi CERTIFIED 6™ 準拠) (MU-MIMO対応)	
	内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式 ^{注23}	
Bluetooth ワイヤレステクノロジー ^{注10} ^{注24}		Bluetooth v5.4準拠	

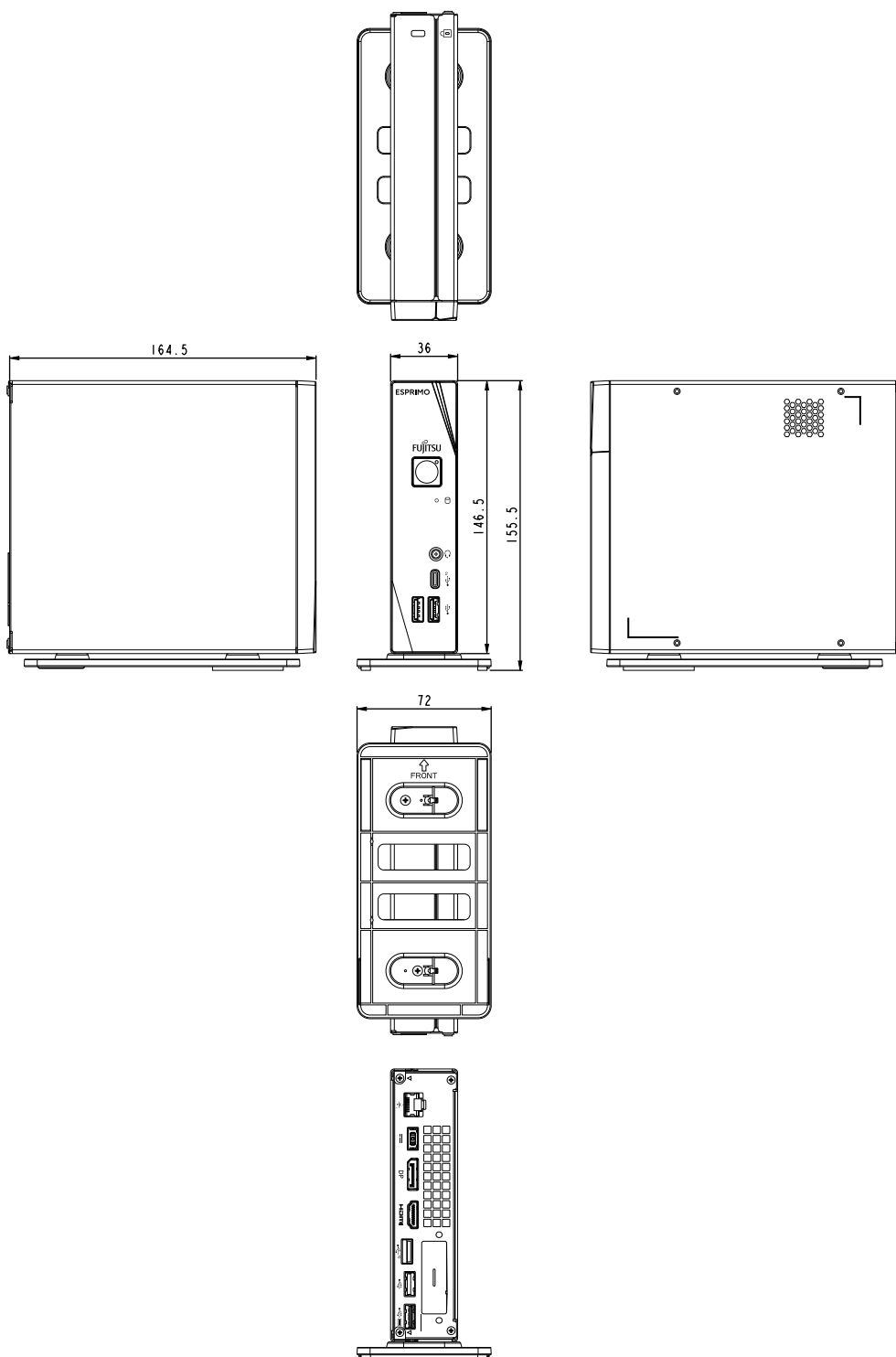
ESPRIMO G6016-TC ^{注1}		
対応CPU	インテル® Core™ Ultra 5 プロセッサ 225T	
セキュリティ機能		
セキュリティチップ (TPM)	TCG Ver 2.0 準拠 ^{注25}	
盗難防止用ロック取り付け穴	あり	
インターフェース		
外部ディスプレイ		
DisplayPort ^{注26}	20ピン×1	
HDMI ^{注26注27}	HDMI出力×1	
DVI-D ^{注10注26}	24ピン×1	
アナログ ^{注10}	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1	
シリアル ^{注10注28}	非同期RS-232C 準拠 D-SUB 9ピン×1 (16550A 互換)	
USB ^{注29注30}		
Type-A	USB 2.0	×2 (背面)
	USB 3.2 (Gen1)	×2 (前面)
	USB 3.2 (Gen2)	×1 (背面)
Type-C	USB 3.2 (Gen2)	×1 (前面)
LAN		RJ-45×1 ^{注31}
オーディオ		×1 (φ3.5mm CTIA 準拠 4極ミニジャック (マイク・ヘッドホン・ヘッドセット兼用端子 ^{注32}))
自己診断 (POST時)		あり ^{注33}
電源	電源供給方式	ACアダプタ
	入力コンセント	入力AC100V～240V、50/60Hz ^{注34} / 出力DC20V (3.25A) 平行2Pプラグ ^{注35}
通常消費電力 ^{注36}		約5.9W ^{注37}
最大構成での消費電力 ^{注38}		約68W ^{注37}
最大消費電力		ACアダプタ込み：約74W、本体のみ：約65W
定格電流		1.5A
外形寸法 (突起部含まず)	縦置き	W 36×D 164.5×H 146.5 mm / W 72×D 164.5×H 155.5 mm (フット装着時)
	横置き	W 146.5×D 164.5×H 36 mm / W 146.5×D 164.5×H 38 mm (ゴム足フット装着時)
質量 ^{注39}		約0.8kg
電波障害対策		VCCIクラスB
国際エネルギースタープログラム ^{注40}		対応 ^{注41}
温湿度条件		温度10～35℃ / 湿度20～80%RH (動作時) 温度-10～60℃ / 湿度20～80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)
プリインストールOS ^{注42}		Windows 11 IoT Enterprise LTSC 2024 ^{注43}
ボリュームライセンスOS ^{注42注44注45}		
サポートOS (BIOS / ドライバー提供含む) ^{注46}	Windows 11 Enterprise LTSC 2024 ^{注47注48} / Windows 10 Enterprise LTSC 2021 ^{注47注49}	
BIOS / ドライバー提供OS ^{注50}	Windows 11 IoT Enterprise LTSC 2024 ^{注51} / Windows 10 IoT Enterprise 2021 LTSC ^{注51}	

本製品の仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

- 注1 : シンククライアントの運用は通常のパソコンとは大きく異なります。導入の際は必ず事前検証のうえ、運用を含めた検討をお願いします。
- 注2 : アプリによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
- ・本製品に搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「9.2 CPU」(→P.122)をご覧ください。
- 注3 : Performance-core。高性能CPUコアで処理能力を向上します。
- ・搭載されるCPUの仕様であり、シングルコア動作時の瞬間的な最大周波数となります。連続してこの動作周波数で動作するわけではありません。
- 注4 : Efficient-core。高効率CPUコアで低消費電力に貢献します。
- ・搭載されるCPUの仕様であり、シングルコア動作時の瞬間的な最大周波数となります。連続してこの動作周波数で動作するわけではありません。
- 注5 : DMIはDirect Media Interfaceの略です。
- 注6 : メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。その容量は搭載されるメインメモリの容量により変動します。
- 注7 : カスタムメイドの選択によって次の容量のメモリが搭載されています。
- ・ 32GB (16GB×2)
 - ・ 16GB (16GB×1)
- 注8 : メモリの増設時は、場合によりすでに搭載されているメモリを取り外す必要があります。
- 注9 : カスタムメイドの選択によって、空きメモリスロット数が変わる場合があります。
- 注10 : カスタムメイドの選択によって搭載されています。
- 注11 : 容量は、1GB=1000 (3) バイト換算値です。
- 注12 : 本製品は、仮想環境に接続して使用することを前提としています。
- 通常のパソコンのようにOfficeなどのアプリをインストールし、仮想環境を利用しない動作を保証するものではありません。
- ・すべてのOSの更新プログラム (Quality Update) に対し、必要な容量を保証するものではありません。
 - ・本製品に対しOSの更新プログラムの適用については、お客様のセキュリティポリシーに従ってください。
- 注13 : カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが搭載されています。
- ・暗号化機能付512GBフラッシュメモリ (DRAM-less/NVMe)
- 注14 : 使用できるサンプリングレートは、アプリによって異なります。
- 注15 : カスタムメイドの選択によっては、次のキーボードが添付されています。
- ・USB抗菌キーボード
- 注16 : カスタムメイドの選択によっては、次のマウスが添付されています。
- ・USBレーザーマウス
 - ・USB抗菌マウス (光学式)
- 注17 : 仮想環境ヘリダイレクトしての使用は、サポートしていません。
- 注18 : 1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
- ・1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンストカテゴリ5 (カテゴリ5E) 以上のLANケーブルを使用してください。
- 注19 : 1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wake on LAN機能は使用できません。
- ・Wake on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定 (オートネゴシエーション) にしてください。
 - 本製品の有線LANインターフェース
 - 本製品の有線LANインターフェースと接続するハブのポート
 この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本製品が省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりするとWake on LAN機能が動作しない場合があります。
 - ・スリープ状態からのWake on LAN機能を使用するには、「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」(→P.48)をご覧ください。
 - ・電源オフ状態からのWake on LAN機能を使用するには、「6.3.5 Wake on LANを有効にする」(→P.85)をご覧ください。
- 注20 : 無線LANの仕様については、「9.4 無線LAN」(→P.124)をご覧ください。
- 注21 : 6LはIEEE 802.11axのみ利用可能です。
- 注22 : Wi-Fi®準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
- 注23 : IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠またはIEEE 802.11ax準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
- 注24 : すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
- 注25 : すべてのソリューションの動作保証をするものではありません。必ず事前検証をお願いします。
- 注26 : HDCPに対応しています。著作権保護された映像を再生する場合は、HDCP対応のデジタルディスプレイをお使いください。
- 注27 : HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
- ・市販のテレビとの連動機能はありません。
- 注28 : すべてのシリアル対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
- 注29 : すべての対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
- ・長いUSBケーブルを使用してUSBデバイスを接続した場合、USBデバイスが正常に動作しないことがあります。この場合は、USB準拠の短いケーブルをお試しください。
- 注30 : 外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は次のとおりです。詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ・USB 2.0 Type-Aは、1ポートにつき500mA
 - ・USB 3.2 (Gen1/Gen2) Type-Aは、1ポートにつき900mA
 - ・USB 3.2 (Gen2) Type-Cは、1ポートにつき5V/900mA
- 注31 : カスタムメイドで「LAN追加」を選択した場合は、「RJ-45×2」になります。
- 注32 : マイクを使用する場合は、CTIA準拠のデバイスを接続してください。
- 注33 : 起動時の自己診断 (POST) で異常が見つかった場合に表示されるメッセージは、「■ 起動時に表示されるエラーメッセージ」(→P.111)をご覧ください。
- 注34 : 入力波形は正弦波のみサポート。
- 注35 : 電源ケーブルはAC100V用 (日本仕様) です。
- 注36 : ご使用になる機器構成により値は変動します。
- ・標準構成 (カスタムメイドしていない構成) でOSを起動させた状態での本体のみの測定値です。
- 注37 : ACアダプタ込みの電力です。

- 注38：・本製品で選択可能なカスタムメイドの最大構成で測定しています。
・測定プログラムは当社独自の高負荷テストプログラムを使用しています。
- 注39：お使いの製品の構成により質量が異なる場合があります。
- 注40：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなおフィス機器の消費電力を削減するための制度です。
- 注41：当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
- 
- 注42：日本語64ビット版。
- 注43：バージョン情報には、「Windows 11 IoT Enterprise LTSC」と表示されます。
次の方法で確認できます。
・「スタート」ボタン→「設定」→「システム」の順にクリックし、「バージョン情報」をクリックします。
- 注44：・弊社は、本製品で「サポートOS」と「BIOS／ドライバー提供OS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。また、BIOS／ドライバー提供ベンダーのサポートポリシー変更によりBIOS／ドライバーの提供に制限が発生する場合があります。
・「サポートOS」および「BIOS／ドライバー提供OS」に関する最新の情報については、「OS関連情報」のページ (<https://www.fmworld.net/biz/fmv/support/os/>) をご覧ください。
- 注45：・Windowsを新規にインストールする場合は、「付録2 Windowsの新規インストールについて」(→P.132) をご覧ください。
・保護管理ツールについては単品での提供をしておりません。ボリュームライセンスOSをインストールする場合は、コマンドラインツールでUWFを設定してください。
- 注46：OSのサポートも含めて、弊社が対応可能です。OSおよびBIOS／ドライバーのサポートについては、SupportDesk契約をご確認ください。
- 注47：Microsoft社とのボリュームライセンス契約が必須となります。OSおよびBIOS／ドライバーのサポートについては、SupportDesk契約をご確認ください。
- 注48：Windows 11 Enterprise LTSC 2024のサポートには延長サポートはなく、メインストリームサポートのみになり、2029年10月9日で終了となりますのでご注意ください。詳しくはMicrosoft社のホームページ (<https://learn.microsoft.com/ja-jp/lifecycle/products/>) をご覧ください。
- 注49：Windows 10 Enterprise LTSC 2021のサポートには延長サポートはなく、メインストリームサポートのみになり、2027年1月12日で終了となりますのでご注意ください。詳しくはMicrosoft社のホームページ (<https://learn.microsoft.com/ja-jp/lifecycle/products/>) をご覧ください。
- 注50：BIOS／ドライバー提供はしますが、弊社ではOSのサポートはできません。OSのサポートについてはMicrosoft社の有償サポート契約が必要です。BIOS／ドライバーのサポートについては、SupportDesk契約をご確認ください。
- 注51：Microsoft社とのボリュームライセンス契約が必須となり、OSのサポートについてはMicrosoft社の有償サポート契約が必要です。BIOS／ドライバーのサポートについては、SupportDesk契約をご確認ください。

9.1.2 六面図



9.2 CPU

本製品に搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

■ インテル(R)ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0

従来のマルチコアの使用状況にあわせてCPUが処理能力を自動的に向上させる機能に加え、高負荷時にパフォーマンスを引き上げるように最適化された機能です。

POINT

▶ OSおよびアプリの動作状況や設置環境などにより処理能力は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル(R)バーチャライゼーション・テクノロジー

本機能をサポートするVMM（仮想マシンモニター）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。

『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

■ 拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー (EIST)

実行中のアプリのCPU負荷に合わせて、WindowsがCPUの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。

POINT

▶ この機能により本製品の性能が低下することがあります。

■ エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

Windowsのデータ実行防止（DEP）機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用すること（バッファ・オーバーフロー脆弱性）を防ぎます。

データ実行防止（DEP）機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「[アプリ名称] は動作を停止しました」という画面が表示されます。「プログラムの終了」をクリックし、表示される対処方法に従ってください。

9.3 ディスプレイ

9.3.1 解像度

本製品が出力可能な解像度です。
お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。

POINT

- ▶ お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。発色数は「32ビット」(約1677万色)です。
- ▶ お使いのOS、ディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

解像度	リフレッシュレート (Hz)	備考
1024×768	85*/75*/70*/60	*アナログディスプレイコネクタを使用する場合に設定可能
1280×1024	85*/75*/60	*アナログディスプレイコネクタを使用する場合に設定可能
1360×768	60	
1440×900	60	
1600×900	60	
1600×1200	60	
1680×1050	60	
1920×1080	60	
1920×1200	60	注
1920×1440	60	DP/HDMIを使用する場合
2560×1440	60	DP/HDMIを使用する場合
2560×1600	60	DP/HDMIを使用する場合
3840×2160	60	DP/HDMIを使用する場合
4096×2160	60	HDMIを使用する場合

【表内の表記について】 DP : DisplayPortコネクタ
DVI : DVIコネクタ
HDMI : HDMI出力端子

注 : アナログRGB出力およびDVI-D出力の最大サポート解像度は1920×1200ドット、60Hz (CVT RB : Coordinated Video Timings Reduced Blanking) です。

お使いのディスプレイがアナログRGB入力およびDVI-D入力での1920×1200ドット表示をCVT RBで対応していれば選択・表示できますが、CVT RBではなく、Standard Timingsで対応している場合には選択できず、1920×1080、1680×1050などの解像度が選択可能な解像度になります。

お使いのディスプレイのアナログRGB入力およびDVI-D入力の仕様については、ディスプレイメーカーに確認してください。

9.4 無線LAN

本製品に搭載されている無線LANの仕様は次のとおりです。

■ Intel(R) Wi-Fi 6E AX211 160MHz

項目	仕様	
無線LAN規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠、IEEE 802.11ax準拠 (Wi-Fi [®] 準拠 ^{注1} 、Wi-Fi CERTIFIED 6 [™] 準拠)	
転送レート ^{注2}	IEEE 802.11b準拠	最大11Mbps
	IEEE 802.11a/g準拠	最大54Mbps
	IEEE 802.11n準拠	最大300Mbps (送信2×受信2 接続対応) ^{注3}
	IEEE 802.11ac準拠	最大1733Mbps (送信2×受信2 接続対応) ^{注3}
	IEEE 802.11ax準拠	最大574Mbps (2.4GHz帯) 最大2402Mbps (5GHz/6GHz帯) (送信2×受信2 接続対応) ^{注3}
セキュリティ ^{注4}	SSID (ネットワーク名) WEP (セキュリティキー (WEPキー) : 64/128ビット) ^{注5} WPA-パーソナル (WPA-PSK) (TKIP/AES) WPA2-パーソナル (WPA2-PSK) (TKIP/AES) WPA-エンタープライズ (WPA) (EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)) (TKIP/AES) WPA2-エンタープライズ (WPA2) (EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)) (TKIP/AES) WPA3-パーソナル (WPA3-SAE) (AES) WPA3-エンタープライズ 192ビット (WPA3) (TLS) (AES) IEEE 802.1X (EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2))	
使用周波数 (中心周波数)	2,412~2,472MHz 5,180~5,320MHz 5,500~5,720MHz 5,955~6,415MHz	
チャンネル	2.4GHz帯 (IEEE802.11b/g/n/ax準拠)	1~13ch
	5GHz帯 (IEEE802.11a/n/ac/ax準拠)	W52 (36/40/44/48ch) W53 (52/56/60/64ch) W56 (100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch)
	6GHz帯 (IEEE802.11ax準拠)	1/5/9/13/17/21/25/29/33/37/41/45/49/53/57/61/65/69/73/77/81/85/89/93ch

注1 : Wi-Fi[®]準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance[®]」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注2 : ご利用の環境によって自動で切り替わります。

注3 : 次の帯域幅に対応しています。

- ・ 20MHz帯域幅 (HT20/VHT20/HE20)
- ・ 40MHz帯域幅 (HT40/VHT40/HE40)
- ・ 80MHz帯域幅 (VHT80/HE80)
- ・ 160MHz帯域幅 (VHT160/HE160)

上記の帯域幅を利用するには、無線LANアクセスポイントも各帯域幅に対応している必要があります。

無線LANアクセスポイントの設定において各帯域幅の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに各帯域幅の機能を無効にしてください。

注4 : IEEE 802.11n、IEEE 802.11ac、IEEE 802.11axで接続するためには、セキュリティの暗号化をAESに設定する必要があります。

注5 : WEPによる暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長24ビットを引いた40ビット/104ビットです。

□ 5GHz帯のチャンネルについて

5GHzの周波数帯において、次のチャンネルを使用できます。

- W52 : 36 (5,180MHz) /40 (5,200MHz) /44 (5,220MHz) /48 (5,240MHz)
- W53 : 52 (5,260MHz) /56 (5,280MHz) /60 (5,300MHz) /64 (5,320MHz)
- W56 : 100 (5,500MHz) /104 (5,520MHz) /108 (5,540MHz) /112 (5,560MHz) /116 (5,580MHz) /
120 (5,600MHz) /124 (5,620MHz) /128 (5,640MHz) /132 (5,660MHz) /136 (5,680MHz) /
140 (5,700MHz) /144 (5,720MHz)

5GHz帯を使用する場合は、上記チャンネルを利用できる無線LAN製品とのみ通信が可能です。

廃棄・リサイクル

■ 本製品の廃棄について

- 内蔵フラッシュメモリのデータを消去していますか？

製品本体に搭載されている内蔵フラッシュメモリには、お客様の重要なデータ（作成したファイルや送受信したメールなど）が記録されています。製品を廃棄するときは、内蔵フラッシュメモリ内のデータを完全に消去することをお勧めします。

内蔵フラッシュメモリ内のデータ消去については、「付録1 製品本体の廃棄・譲渡時の注意」（→P.127）をご覧ください。

- メインボード上に装着されている電池は取り外さずに、製品本体と一緒に廃棄してください。

- 本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

- ・法人、企業のお客様へ

本製品の廃棄については、弊社ホームページ「環境」（<https://global.fujitsu/ja-jp/sustainability/environment>）の「ICT製品の処分・リサイクル方法」をご覧ください。

付録1 製品本体の廃棄・譲渡時の注意

ここでは、製品を廃棄・譲渡するときにデータが流出するのを防ぐための対策について説明しています。

製品の廃棄・譲渡時の内蔵フラッシュメモリ上のデータ消去に関する注意

製品は、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらの製品の中の内蔵フラッシュメモリという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、その製品を譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去することが必要です。

ところが、この内蔵フラッシュメモリ内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ①データを「ごみ箱」に捨てる
- ②「削除」操作を行う
- ③「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ④ソフトで初期化（フォーマット）する
- ⑤リカバリし、ご購入時の状態に戻す

などの作業を行うと思います。

まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元することができてしまいます。さらに②～⑤の操作をしても、内蔵フラッシュメモリ内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、この製品の内蔵フラッシュメモリ内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

製品ユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、内蔵フラッシュメモリ上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、内蔵フラッシュメモリに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、内蔵フラッシュメモリ上のデータを物理的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、内蔵フラッシュメモリ上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなく製品を譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

データ消去

本製品の内蔵フラッシュメモリのデータは、付属の「ERASE DISK」で消去します。

重要

- ▶ データ消去は、特殊な設備や特殊なアプリの使用によりデータを復元される可能性があります。あらかじめご了承ください。

■ 注意事項

- 製品本体にUSBメモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなど周辺機器を接続している場合は、データ消去を実行する前に必ず取り外してください。

POINT

- ▶ データ消去実行後に消去ログを保存する場合は、フォーマット済みのUSBメモリ（FAT32ファイルシステム）を準備してください。
- 必要なデータは事前にバックアップしてください。
- データ消去を実行するとフラッシュメモリに格納されているデータ（リカバリデータなど）はすべて消去されます。
また、Windowsが起動できなくなるので、再度製品を使用する場合はリカバリの実行が必要となります。必要に応じてデータ消去の前にリカバリデータディスクを作成してください。作成方法は『リカバリガイド』をご覧ください。
データ消去中に電源を切らないでください。内蔵フラッシュメモリが故障する可能性があります。

■ データ消去方法

「ERASE DISK」を実行するには、製品の電源を完全に切った後、BIOSセットアップを起動します。BIOSセットアップで管理者パスワードを設定し、「ERASE DISK」を開始します。

BIOSセットアップを起動する

- 1 本製品の電源を完全に切ります。**
電源の切り方は、「3.5.2 電源を切る」（→P.49）をご覧ください。
- 2 【F2】キーを押したまま、製品の電源を入れます。**
- 3 ビープ音が鳴ったら、【F2】キーを離します。**
BIOSセットアップ画面が表示されます。
パスワード入力画面が表示された場合はパスワードを入力（→P.82）してください。

POINT

- ▶ Windowsが起動してしまった場合は、本製品の電源を完全に切ってからもう一度操作してください。
電源の切り方は、「3.5.2 電源を切る」（→P.49）をご覧ください。

□ 管理者パスワードを設定する

すでに管理者パスワードを設定している場合は、「6 「終了」メニューを選択します。」へ進んでください。

- 1 「セキュリティ」メニューを選択します。
- 2 「管理者用パスワード設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「新しいパスワードを入力してください」にパスワードを入力します。
「現在のパスワードを入力してください」と表示された場合は、すでに管理者パスワードが設定されています。【Esc】キーを押して、「6 「終了」メニューを選択します。」へ進んでください。
- 4 「新しいパスワードを確認してください」に同じパスワードを入力します。
「変更が保存されました。」と表示され、パスワードが設定されます。
- 5 【Enter】キーを押します。

POINT

- ▶ 管理者パスワードは、ERASE DISKを実行するために必要です。
管理者パスワードを忘れると、ERASE DISKの実行や管理者パスワードの変更・削除などができなくなります。
管理者パスワードはメモに控えるなど、忘れないようにしてください。
- ▶ 入力できる文字については、「6.3.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.80）をご覧ください。

- 6 「終了」メニューを選択します。
- 7 「変更を保存する」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。
- 8 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
変更が保存されました。

□ ERASE DISKを実行する

- 1 「セキュリティ」メニューを選択します。
- 2 「データ消去（ERASE DISK）」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「次回起動時にERASE DISKユーティリティが起動します。」と表示されたら、「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「終了」メニューを選択します。
- 5 「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。
- 6 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
製品が再起動し、ERASE DISKが起動します。

7 管理者パスワードを入力して、【Enter】キーを押します。

重要

- ▶ 次の場合は「ERROR」が表示されます。
 - ・パスワードを間違えています。
「OK」をクリックし、正しいパスワードを入力し直してください。
 - ・パスワードを3回間違えています。
パスワードを3回間違えると、ERASE DISKを中止します。「PCを再起動する」をクリックして、「 BIOS セットアップを起動する」(→P.128) からやり直してください。

8 「次へ」をクリックします。

「ご使用条件」が表示されます。内容をよくお読みください。

9 「了承の上、次へ」をクリックします。

本製品に搭載されているストレージ（フラッシュメモリ）の名前が表示されます。

10 データ消去するストレージ（フラッシュメモリ）を選択して、「次へ」をクリックします。

データの消去法選択画面が表示されます。

11 そのまま「次へ」をクリックします。

12 「ドライブ消去後に実行するオプションを選択してください」と表示されます。

13 実行するオプションを選択します。

データ消去後に、選択したオプションの処理が行われます。

- ・ BIOSの管理者およびユーザーパスワードをリセットします
- ・ BIOSの標準設定値を読み込みます
- ・ コンピューターをシャットダウンします
- ・ 消去ログをUSBドライブにセーブします

重要

- ▶ オプションは複数選択することができます。
- ▶ オプションで「消去ログをUSBドライブにセーブします」を選択する場合は、フォーマット済みのUSBメモリ（FAT32ファイルシステム）を本製品に接続してから、「次へ」をクリックしてください。

14 「次へ」をクリックします。

データ消去前の確認画面が表示されます。

15 消去しても問題が無ければ、「了承の上、次へ」をクリックします。

データ消去が開始されます。完了するまでしばらくお待ちください。

16 「データ消去が正常に完了しました」と表示されたら、次に行う動作を選択します。

- ・ 消去ログを見る : データ消去をしたログを確認できます。
- ・ 消去ログをUSBドライブにセーブする : 消去ログをUSBメモリに保存できます。
フォーマット済みのUSBメモリ (FAT32ファイルシステム) を製品に接続してから選択してください。
- ・ トップに戻る : 2台目のストレージのデータ消去を行う場合に選択します。
手順10の画面が表示されるので、同様の手順でデータ消去を行ってください。
- ・ PCを再起動する : 製品が再起動します。

 重要

- ▶ 手順13のオプションで「コンピューターをシャットダウンします」を選択した場合は、そのまま製品の電源が切れます。
- ▶ 消去ログの情報は本パソコン内に残されます。消去ログの確認やUSBメモリへの保存が終わったらログを削除することをお勧めします。
消去ログを削除する場合は「消去ログを見る」または「消去ログをUSBドライブにセーブする」を選択し、表示された画面で「ログを消す」をクリックして画面の指示に従ってください。

以上でデータ消去は終了です。

再度、製品を使用する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『取扱説明書』をご覧ください。

付録2 Windowsの新規インストールについて

Windowsを新規にインストールする方法を説明します。手順どおりにインストールすることで、製品が正常に動作します。

注意事項

- 新規インストールすることができるOSは、「9.1 本体仕様」(→P.117)に記載している「ボリュームライセンスOS」をご覧ください。
ただし、保護管理ツールについては単品での提供をしておりません。新規にOSをインストールする場合は、コマンドラインツールでUWFを設定してください。
- Windowsを新規にインストールすると、内蔵フラッシュメモリのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- Windowsをインストールすることにより、今までお使いになっていた機能が使えなくなることがあります。
- ご購入後に増設・接続された周辺機器は、必ず取り外してください(カスタムメイドオプションを除く)。OSの新規インストールが完了してから、1つずつ取り付けてください。
- 無線LAN搭載機種の場合、新規インストール時にBluetoothワイヤレステクノロジーでキーボード/マウスを接続することはできません。これらの操作には、USBキーボード、USBマウスを用意してください。
- ドライバーはすべてインストールしてください。インストールしないと製品が正常に動作しません。
- 別売の外付け光学ドライブを接続してください。
- インストールするWindowsのバージョンおよびエディションによって、インターネット接続が必要になる場合があります。事前にご確認のうえ、Windowsをインストールすることをお勧めします。
また、インターネット接続をするために、対応するネットワークドライバーのインストールが必要な場合があります。
- 弊社はボリュームライセンスOSの「サポートOS」と「BIOS/ドライバー提供OS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。お客様自身で十分に動作検証をお願いします。
- ボリュームライセンスOSの「BIOS/ドライバー提供OS」(「9.1 本体仕様」(→P.117)記載)のサポートはMicrosoft社になります。OSの不具合については、SupportDeskでは調査できません。

新規インストールの準備

キーボード、マウス、外付け光学ドライブを接続する

BIOSの設定をご購入時の状態に戻す (→P.87)

セキュリティチップをクリアする (→P.84)

ディスクを用意する

- 正規のWindows 11のインストールディスクまたはWindows 10のインストールディスク
- ドライバーズディスク

重要

- ▶ 「ドライバーズディスク」がお手元がない場合は、事前にディスクを作成してください。
作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

内蔵フラッシュメモリデータを消去する (→P.128)

新規インストール手順

新規インストールは、製品の電源を完全に切った状態から行ってください。

1 ディスクをセットした外付け光学ドライブを製品本体に接続し、Windowsのインストールディスクを起動します。

1. 本製品の電源を完全に切ります。
電源の切り方は、「3.5.2 電源を切る」(→P.49)をご覧ください。
2. 【F12】キーを押したまま、本製品の電源を入れます。
3. ビープ音が鳴ったら、【F12】キーを離します。
起動メニューが表示されます。
4. インストールディスクをセットします。
5. CD/DVD Driveを選択して【Enter】キーを押します。
 - ・「選択したデバイスから起動できませんでした。」と表示された場合
BIOSの設定が誤っている可能性があります。設定を確認してください。
「Press any key to boot from CD or DVD…」と表示された場合は、何かキーを押してください。

2 画面の指示に従って、Windowsのインストールとセットアップを行います。

操作の途中で次の画面が表示されます。画面が表示されたら、次の操作を行ってください。

- 「インストールの種類を選んでください」が表示されたら
 1. 「カスタム：Windowsのみをインストールする」をクリックします。
新規インストールはこちらを選択してください。
- 「Windowsのインストール場所を選択してください」が表示されたら
Windowsをインストールするパーティションを作成します。
 1. 「新規」をクリックし、「適用」をクリックします。
複数のパーティションが作成されます。
 2. 「プライマリ」と書かれたパーティションを選択し、「フォーマット」をクリックします。
選択したパーティションがフォーマットされます。

POINT

- ▶ Windowsのインストールの前にドライバーをインストールする場合は、「ドライバーの読み込」をクリックし、画面の指示に従って進めてください。
- 3. 「プライマリ」と書かれたパーティションを選択し、「次へ」をクリックします。
Windowsのインストール場所を設定します。
Windowsのインストールが始まります。途中何度か再起動しますが、そのままお待ちください。
設定画面が表示されたら、画面に従って進めてください。
しばらくするとデスクトップ画面が表示され、インストールとセットアップが完了します。

3 ドライバー、アプリ、ユーティリティをインストールします。

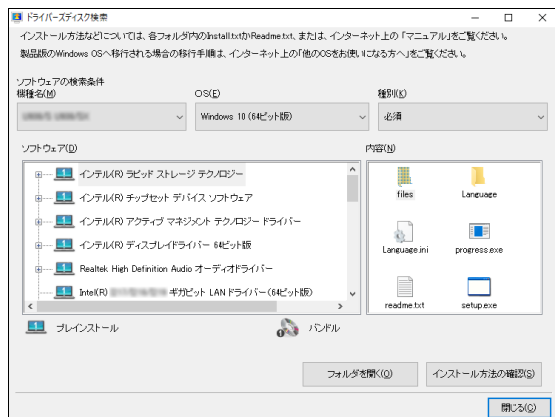
1. 「ドライバーズディスク」をセットします。
「ドライバーズディスク検索 (DRVCDSRC.exe)」が起動します。

POINT

- ▶ 「ドライバーズディスク検索」が起動しない場合は、次のように操作してください。
 1. 「スタート」ボタンを右クリックし、「エクスプローラー」をクリックします。
 2. ウィンドウ左の「PC」をクリックします。
 3. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をクリックします。
 4. 「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックします。

2. 「ソフトウェアの検索条件」の「機種名」からお使いの機種を、「OS」からお使いのOSをそれぞれ選択します。
3. 「種別」から「必須」を選択し、「ソフトウェア」に表示されたドライバーを上からインストールします。

必ず上から順にインストールしてください。インストール方法については「Readme.txt」をお読みください。



(表示内容は機種や状況により異なります)

4. 「種別」から「任意」を選択し、「ソフトウェア」から必要なドライバー、アプリ、ユーティリティをインストールします。
 - ・ご購入時に選択したカスタムメイドにあわせてインストールしてください。
 - ・プレインストールと記載されているソフトウェアは、インストールすることをお勧めします。
 - ・インストール方法については「Readme.txt」をお読みください。

この後は、「お客様専用マスタを作成する場合の注意事項」のページ (<https://www.fmworld.net/biz/fmv/support/os/master/>) をご覧になり、お客様専用マスタを作成してください。

ESPRIMO G6016-TC

製品ガイド

B5FL-4071-01 Z0-00

発行日 2026年4月

発行責任 富士通株式会社

〒211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中4-1-1

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。